松本市文化財調査報告 No.223

長野県松本市

殿村遺跡

—第６次発掘調査報告書—

2016.3

松本市教育委員会

例　言

1　本書は、平成 26 年度殿村遺跡調査事業に係る殿村遺跡第 6 次発掘調査の報告書である。

2　発掘調査から報告書作成まで、一連の作業は平成 26・27 年度国庫補助事業として実施し、現地における発掘調査は平成 26 年 8 月 18 日から同年 12 月 19 日まで実施した。

3　本書の執筆は以下の分担で行った。

第Ⅱ章第 1・2 節、第 3 節 1・2：伊藤　愛、同 第 3 節 3：原田健司、第Ⅲ章：竹原　学

4　本書作成に係る作業分担は以下のとおりである。

遺物実測　　焼物：竹内直美、石器：白鳥文彦、原田健司、拓本：竹平悦子（焼物）・洞沢文江（銭）

現場写真撮影　　伊藤　愛

遺物写真撮影　　宮嶋洋一

DTP　　挿図トレース・レイアウト：伊藤　愛（遺構・焼物）・原田健司（石器）

写真図版作成・版組全般：伊藤　愛

5　本書の中で使用した遺構の略称等は、以下のとおりである。

土坑→土、ピット→P、溝状遺構→溝

6　焼物（土器・陶磁器）実測図における断面の塗り分けは以下のとおりである。

白：土師器・土師質土器、黒：須恵器・陶磁器、灰：瓦質土器

7　遺物図中における上記以外の灰色トーンの意味は以下のとおりである。

黒色土器：黒色処理範囲（ドットで表示）

土師質土器皿：灯明としての使用痕であるタール・煤状炭化物付着範囲

8　焼物の器種分類は、本書で独自の設定したもの以外は巻末に記載した先行する文献に従った。

9　図中で使用した方位は真北を示す。また遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第 8 系）は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北太平洋沖地震以前の値で、地震変動に対する補正は行っていない。

10　現地調査から本書作成までの間、以下の方々から指導・助言・協力を得た。なお、調査指導委員等関係者については第Ⅰ章に記した。

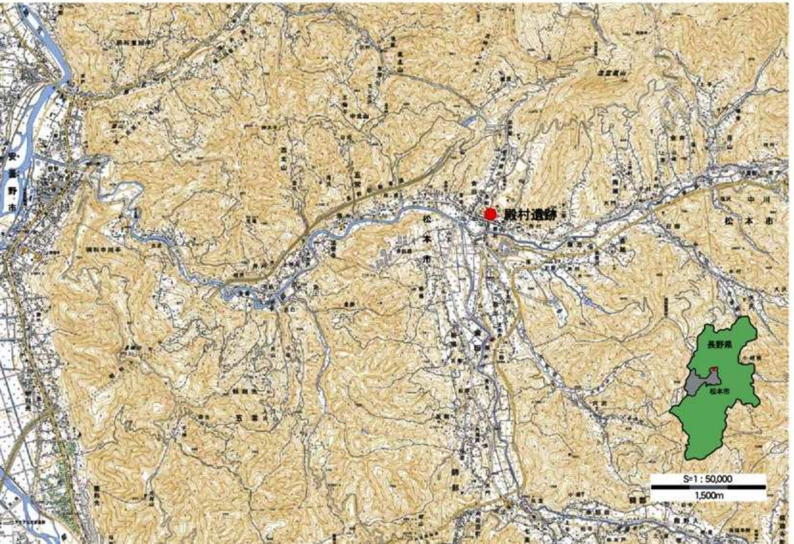
大河内忠則、小口倬郎、伴在琴恵、藤澤良祐、望月道彦、横内文人（敬称略）

11　本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒 390-0823 松本市中山 3738-1　TEL0263-86-4710　FAX0263-86-9189）に保管している。

目　次

例　言
目　次
第Ⅰ章　調査事業の概要
　第１節　事業の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　第２節　第６次調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　第３節　調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第Ⅱ章　第６次調査の成果
　第１節　調査の目的と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第２節　遺構
　　1　6A1 トレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
　　2　6A2 トレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　　3　6D1 トレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　　4　6D2 トレンチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
　第３節　遺物
　　1　焼物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
　　2　金属製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
　　3　石器・石製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第Ⅲ章　第６次調査のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
写真図版
報告書抄録
奥　付

第１図　殿村遺跡の位置



第Ⅰ章　調査事業の概要

第１節　事業の経緯

1　第１次調査と保存に至る経過

殿村遺跡は、松本市大字会田字殿村 536 外に所在する縄紋時代～中世の複合遺跡である。松本市教育委員会が平成 20 年に実施した四賀地区統合小学校（四賀小学校）建設に係る第１次発掘調査では、縄文・古代の集落跡との当初予想に反して、15 世紀代の石積を伴う中世の大規模な造成遺構が検出され、しかも 16 世紀にかけて数回にわたる拡張により遺構面が複雑に重層する状況が確認された。

これにより調査期間が大幅に超過したため、担当課である文化財課と学校教育課の間で再三にわたって協議を重ね、調査期間の延長を図った。一方、調査成果に対して次第に各方面からの注目が集まることとなり、保存要望も寄せられるようになった。そして、平成 21 年７月に至って四賀地区町会連合会から、「殿村遺跡保存及び四賀小学校早期建設に関する要望書」が提出されたことを受けて、松本市は遺跡の現地保存と学校建設地の移転を決定した。その後の調査は記録保存から保存目的の確認調査へと方針転換し、最後に保護砂の被覆等遺構保護のための措置を講じて、平成 22 年１月に第１次調査が終了した。

2　調査指導委員会の発足と総合調査の計画

保存決定により、市教育委員会は文化庁および長野県教育委員会の助言を受け、平成 22 年度から専門家による殿村遺跡調査指導委員会を発足させ、その指導の下で遺跡の範囲や内容を明らかにし、性格を究明するための確認調査を継続的に実施していくことになった。

第１回調査指導委員会（平成 22 年４月開催）では、第１次調査の概要と保存に至る経過の報告、今後の発掘調査計画を示した。一方、各委員からは、殿村遺跡を取り巻く歴史的景観、とりわけ中世以前の虚空蔵山麓一帯に宗教空間が広がっていた可能性が高く、殿村遺跡はそこに所在する宗教施設のひとつでではないかとの指摘を受けた。それを踏まえ、今後の調査は殿村遺跡の発掘調査だけでなく、宗教空間全体を対象とした総合的な調査を実施し、その中で遺跡の位置付けなされるべきとの指導を得た。

3　殿村遺跡調査事業

そこで、市教育委員会はあらためて計画を見直し、発掘調査を軸とした総合調査として「殿村遺跡調査事業」を計画した。そこでは、遺跡（点）から地域・背景（面）へと視点を拡大させ、殿村遺跡の発掘調査を事業の柱に、周辺の城館跡、景観、社寺・信仰資料等の調査を実施していくこととなった。

事業の柱となる殿村遺跡の発掘調査については、遺跡の内容確認に加えて将来的に保護すべき範囲を把握することを目的に、特に①１次調査で検出された石積を伴う造成遺構について外郭構造を中心とした全体像の把握、②中世の造成遺構の分布範囲と保存状況の確認、③遺構群の時間的・空間的位置付けと性格の解明等を主眼に進めることとなった。

4　計画に基づく調査の実施（第１表・第２図）

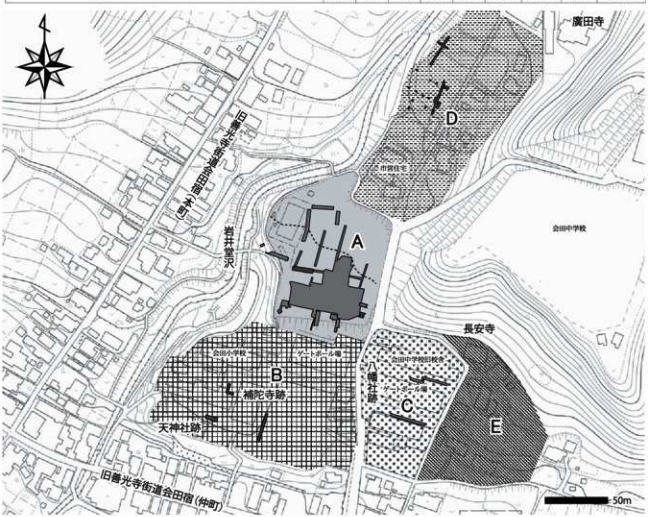
調査計画では、南北約 400 m・東西約 300m に及ぶ遺跡推定範囲をＡ～Ｅの５ゾーンに分割し、毎年、Ａゾーンにおける内容確認のための調査と、他ゾーンにおける範囲把握を主目的とした調査を組み合わせて行うこととした。また、調査報告書は次年度に刊行し、最終年度に総括編を刊行することを目標とした。

この計画に基づき、平成 26 年度は 4 カ所（6A1・6A2・6D1・6D2）の発掘調査を実施するとともに、第 5 次調査（平成 25 年度実施）報告書をまとめた。また、平成 27 年度は第 6 次調査の整理作業と報告書作成を進めるとともに、第 7 次調査（7A1・7E1）を実施した。

なお、調査事業の進展に伴い、殿村遺跡と密接な関係を有すると考えられる虚空蔵山城跡についても、発掘調査による確認が必要との判断に達し、平成 24 年度から 3 回の計画で調査を開始、平成 25 年度は 2 回目となる第 3 次調査を実施した（平成 26・27 年度は未実施）。

第 1 表　調査計画

ゾーン	予想される検出遺構等	土地利用状況		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	
				2 次	3 次	4 次	5 次	6 次	7 次	8 次		
A	中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	空地	市有地	1 次調査区周辺								
B	旧補陀寺関連遺構（中・近世） 旧天神社関連遺構（近世） 中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	学校 住宅 GB 場	市有地、 一部民有地				校舎 校庭			校舎 校庭		
C	長安寺関連遺構（中・近世） 八幡社関連遺構（近世） 中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	旧校舎 GB 場	市有地	旧校舎周辺		旧校舎周辺				旧校舎周辺		
D	廣田寺関連遺構 中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	畑地 宅地	民有地 一部市有地				休耕田 荒地					
E	長安寺関連遺構（中・近世） 縄紋・古代～中世遺構面	畑地 宅地	民有地						長安寺 跡地		畑地	
調査報告書刊行				1 次 概報	2 次 報告	3 次 報告	4 次 報告	5 次 報告	6 次 報告	7 次 報告	8 次 報告	9 次報告 （総括編）



第 2 図　ゾーニング

第２節　第６次調査の経過

今回報告する第６次調査は、平成 26 年度国庫補助事業として実施したものである。調査箇所は４箇所（6A1･6A2 トレンチ、6D1 ～ 6D2 トレンチ）で、平成 26 年８月 18 日に着手、同年 12 月 19 日に終了した。また、報告書の作成は平成 27 年度国庫補助事業として行った。

調査から報告書刊行までの一連の事務および作業の経過は以下に示すとおりである。

＜平成 26 年＞

２月７日　平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出
３月 16 日　殿村遺跡発掘５周年記念シンポジウム開催（あがたの森文化会館）
３月 26 日　第４次発掘調査報告書刊行
３月 31 日　平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金実績報告書提出
４月１日　平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知
４月 11 日　平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金の額の決定通知
８月 18 日　殿村遺跡第６次調査開始
11 月 10・11 日　平成 26 年度調査指導委員会開催
12 月６日　殿村遺跡現地説明会開催
12 月 19 日　殿村遺跡第６次調査完了

＜平成 27 年＞

２月９日　平成 27 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出
３月 21 日　殿村遺跡とその時代Ⅴ―平成 26 年度発掘報告会・講演会開催（ピナスホール）
３月 25 日　第５次発掘調査報告書刊行
３月 31 日　平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金実績報告書提出
４月９日　平成 27 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知
４月 10 日　平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金の額の決定通知
５月 18 日　殿村遺跡第７次調査開始
７月 29 日　殿村遺跡現地説明会開催（第１回）
９月 26 日　殿村遺跡現地説明会開催（第２回）
10 月 14 日　平成 26 年度調査指導委員会開催（第１回）
10 月 17・18 日　平成 26 年度調査指導委員会開催（第２回）
11 月６日　殿村遺跡第７次調査完了

＜平成 28 年＞

３月 25 日　第６次発掘調査報告書刊行
３月 26 日　平成 27 年度発掘報告会・講演会開催（四賀支所ピナスホール）

第３節　調査体制

＜平成 26 年度＞

調査担当　竹原　学（埋蔵文化財担当係長）、宮島義和、伊藤　愛（嘱託）

調　査　員　青木教司、市川惠一、浜野安則

発掘協力者　上村公住、長岩千晴、待井正和、矢満田伸子

整理協力者　天野雅代、荒井留美子、市川二三夫、内田和子、柏原佳子、佐々木正子、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、洞沢文江

事　務　局　松本市教育委員会文化財課

内城秀典（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井　了（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

殿村遺跡調査指導委員会

委員長　笹本正治（信州大学副学長）

委　員　小野正敏（前大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）

辻　誠一郎（東京大学大学院教授）

中井　均（滋賀県立大学教授）

中澤克昭（上智大学准教授）

水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課文化財係長）

指導・助言　櫻井秀雄（長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事）

＜平成 27 年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）

調査担当　竹原　学（課長補佐・史跡整備担当係長、宮島義和（研究専門員）、伊藤　愛（嘱託）

報告書担当　竹原　学、原田健司（主事）、伊藤　愛

調　査　員　青木教司、市川惠一、浜野安則

発掘協力者　茅野信彦、鳥井和幸、長岩千晴、待井正和、古屋美江、矢満田伸子

整理協力者　荒井留美子、市川二三夫、柏原佳子、竹平悦子、洞沢文江、三澤栄子、村山牧枝

事　務　局　松本市教育委員会文化財課

内城秀典（課長）、直井雅尚（課長補佐・埋蔵文化財担当係長）、櫻井　了（同　主査）、吉見寿美恵（同　嘱託）

殿村遺跡調査指導委員会

委員長　笹本正治（信州大学副学長）

委　員　小野正敏（前大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）

辻　誠一郎（東京大学大学院教授）

中井　均（滋賀県立大学教授）

中澤克昭（上智大学准教授）

水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課参事・文化財係長）

指導・助言　櫻井秀雄（長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事）

第Ⅱ章　第６次調査の成果

第１節　調査の目的と方法

調査地の選定とトレンチの配置（第３図）　殿村遺跡調査事業に係る一連の発掘調査は、①１次調査で検出した平場遺構周辺における整地層の広がりと外縁部の状況を確認すること（内容把握）と、②広大な遺跡内における中世造成遺構の広がりの確認（範囲確認）を目的として実施している。６回目を数える今回の調査は、１次調査Ａ区南東に接して 6A1 トレンチを設定し、平場南東部の範囲の把握に努めた。北西では１次調査の際に試掘を行った経緯があるが（Ｈトレンチ）、トレンチの水没によって遺構の記録や面の確認を断念したため、今回改めて同位置に 6A2 トレンチを設定し、遺構面の確認をすることとした。また、遺跡北部における範囲確認として、廣田寺南西に 6D1・6D2 トレンチを設定し確認調査を実施した。

調査手順　6A1 トレンチの調査は、まず厚さ 1.5 ～ 2.0m に達するグラウンド造成土を重機で除去し、昭和 28 年当時の地表面を検出した。ここを調査開始面としてトレンチを設定し、以後人力作業によって層位的な掘り下げを行った。6A2 トレンチは１次調査区Ｈトレンチと重複させてトレンチを設定し、6A1 トレンチ同様重機によるグラウンド造成土除去後に掘り下げを開始した。6D1・6D2 トレンチについては、近年まで畑として利用されていた緩斜面にトレンチを設定し、重機で表土を除去して調査を行った。

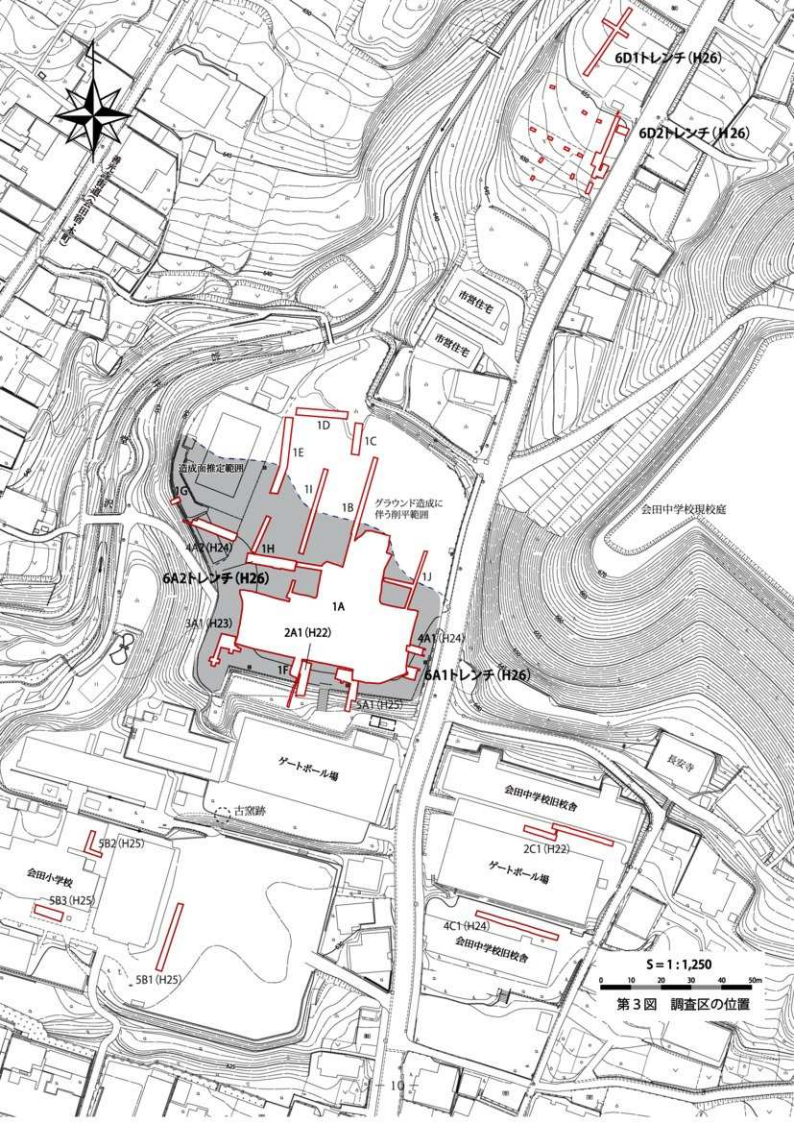
調査面・遺構名・番号管理　6A1 トレンチでは、１次調査区の１～２面に相当する遺構面が確認され、それ以下の面については今回は調査の対象外とした。6A2 トレンチでは１次調査時に未確認だった１～３面が確認され、遺構もすべての面で検出できた。6D1 トレンチは耕作土の下で遺構面に到達したが、整地土はみられず地山上で遺構が僅かに確認されたのみであった。6D2 トレンチも桑畑として利用されていた経緯から攪乱が遺構面にまで達していたが、全域に整地土が広がり、石積や石列等の遺構の状態は極めて良好であった。

遺構番号はこれまで使用した番号に後続する区切りのいい数（1601 ～）から開始し、１次調査の方針に従い内容が判明した時点で種別を頭に冠した。石積・石列等特定の遺構も１次調査からの連番とした。

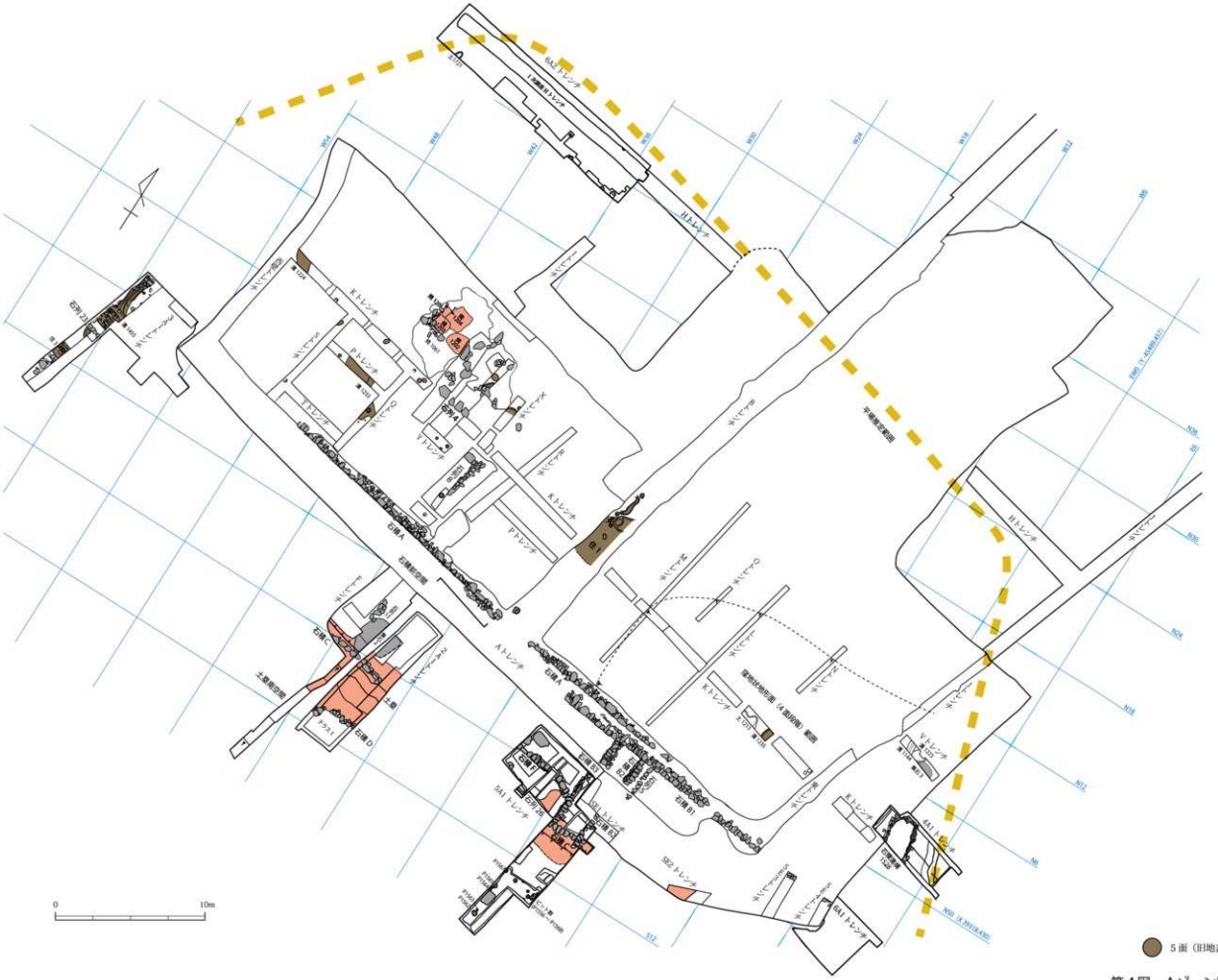
記録　6A1･6A2 トレンチの測量基準は１次調査で設定したメッシュを踏襲した。国家座標（世界測地系・第８系）に拠っているが、１次調査との整合を図るため、東北太平洋沖地震以前の観測値を補正せずに使用している。6D1・6D2 トレンチについても同様で、平成 22 年度に設置した基準点から国家座標を導いた。

第２表　調査成果一覧

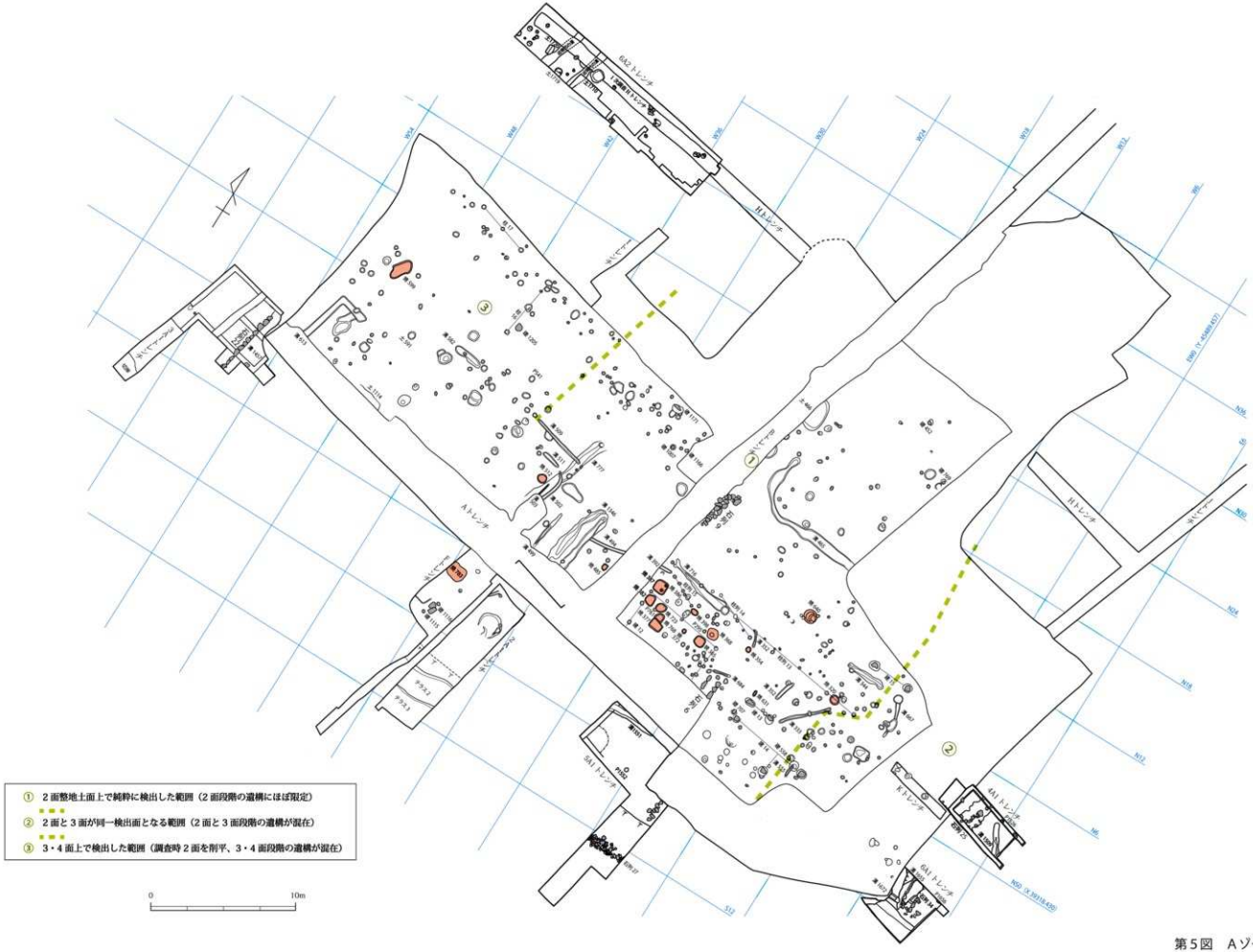
調査期間	平成 26 年８月 18 日～ 12 月 19 日	調査面積	201 ㎡（6A1：13 ㎡・6A2：54 ㎡・6D1：48 ㎡・6D2：86 ㎡）
検出遺構		出土遺物	
＜ 6A1 トレンチ＞ １面：ピット１、柱穴列１、杭２ ２面：ピット１、溝状遺構２、石列１ 近現代：溝状遺構１ ＜ 6A2 トレンチ＞ １面：ピット 21、土坑４、掘立柱建物址１、柱穴列１ ２面：ピット１、土坑１ ３・４面：ピット５、土坑１ その他：ピット 19、土坑３ 近現代：溝状遺構２ ＜ 6D1 トレンチ＞ 中世：ピット２ ＜ 6D2 トレンチ＞ 中世：ピット 45、溝状遺構６、炉址１、不明遺構１、		縄紋：石器・石製品（磨製石斧・二次加工ある剥片・微細加工ある剥片・有孔石製品他） 奈良・平安：土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器 中世：土師質土器（皿・内耳鍋） 炉器（常滑甕） 瓦質土器（風炉） 陶器（船載陶器天目茶碗・大窯天目茶碗・古瀬戸・皿類・盤・擂鉢・その他） 磁器（青磁碗） 石器（石臼・砥石） 金属製品（銭）	


6D1トレンチ（H26）
6D2トレンチ（H26）
市営住宅
市営住宅
1D
1C
1E
造成面推定範囲
1I
1B
グラウンド造成に
伴う削平範囲
1G
4A2（H24）
1H
6A2トレンチ（H26）
1J
1A
3A1（H23）
2A1（H22）
4A1（H24）
1F
6A1トレンチ（H26）
5A1（H25）
会田中学校現校庭
ゲートボール場
長安寺
古窯跡
会田中学校旧校舎
2C1（H22）
ゲートボール場
5B2（H25）
会田小学校
5B3（H25）
4C1（H24）
会田中学校旧校舎
5B1（H25）
S＝1：1,250
0 10 20 30 40 50m

第３図　調査区の位置

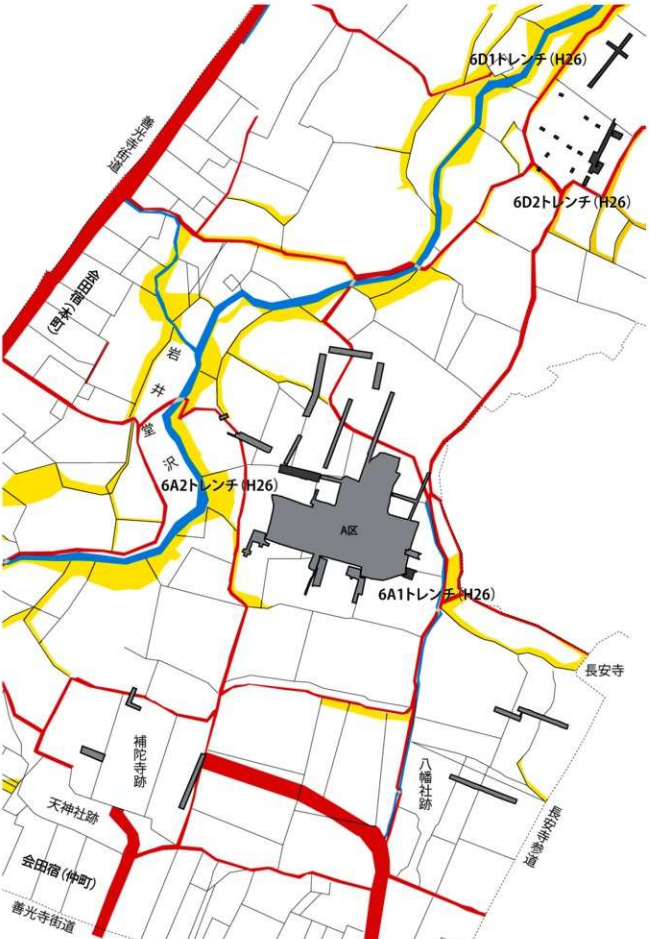


第４図　Ａゾーン調査区全体図（５～３面）

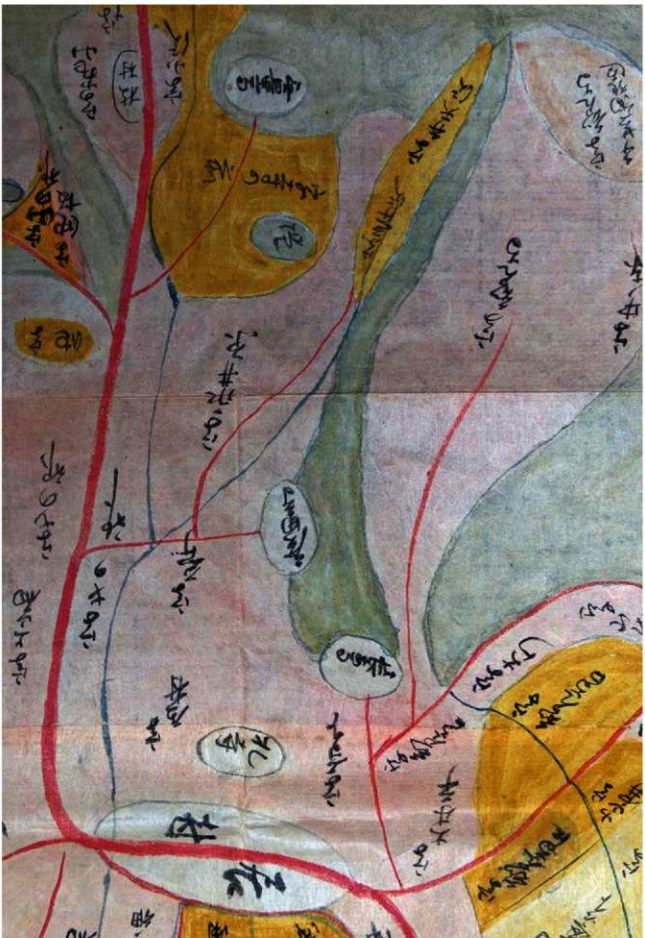


第5図　Aゾーン調査区全体図（2面）

第６図　Ａゾーン調査区全体図（１面）



第７図　調査区と周辺の地割（明治 24 年）



第８図　『信濃国筑摩郡会田町村絵図』（大河内忠則氏所蔵）に見る調査地周辺の地名

第2節　遺　構

1　6A1トレンチ（第3・4表、第9～10図）

(1) トレンチの概要と土層構成、遺構の概要

トレンチの概要　本調査区は標高640 m地点に位置しており、1次調査A区南東隅に接する南北4.0m・東西4.1m（いずれもグラウンド盛土を除いた旧地表面での規模）・面積13㎡のトレンチである。H24年度には本調査区北側の4A1トレンチを調査し、1面において南北に延びる土塁状盛土を確認した。今回の調査では、この土塁状盛土の南部の様子を明らかにすることを目的とし、4A1トレンチの南4.7 m地点に調査区を設定したものである。調査地は昭和28年に造成されたグラウンド盛土によって平坦面となっており、現況からは旧地形を推察することはできない。このグラウンド盛土を重機で掘り下げたところ、約1.5～2.0 mの深さで南に緩く傾斜する昭和28年以前の旧地表面に到達し、ここを調査開始面とした。旧表土を剥がすと厚く土壌化した土が現れ、この下が1面となる。1面の整地土は4次調査で確認された土塁状盛土であり、その下では2･3面が確認された。1･4次調査の結果から、この面より下に4面が存在する事が予測されたが、今回は2・3面までの調査に止めた。

土層構成　調査の結果、4A1トレンチと共通する遺構面第1～2・3面が確認された。1面整地土である土塁状盛土（5～16層）は、地山由来の黄褐色土塊を多量に含んでおり、しまりの強い整地土である。遺物は常滑の甕が出土している。土塁盛土最下層は炭塊を多量に含む灰色粘土層（17層）で、4次調査の1面最下層17層に相当する。土塁状盛土構築の際基盤土として貼られたか、あるいはそれ以前の構築物に伴うものと考えられる。2･3面整地土は黄褐色を基調とし、1次調査区東部以東に広く分布する整地土である。

遺構の概要　1面では、ピットが3基（P1657～1659）と杭2本を検出した。このうちP1658･1659は柱穴列を形成するとみられる。本面では、4次調査区で検出した土塁状盛土の延長も確認された。2・3面で検出した遺構は、溝2条（溝1655･1672）とピット1基（P1656）、石列34で、溝やピットの覆土はいずれも1面最下層（17層）の粘土に由来するものである。

なお、調査区南部には東西に走る近代遺構の溝（流路か）が掘りこまれており、底面は未調査であるが覆土からは中国産の天目茶碗が出土している。

(2) 2面の遺構

P1656　調査区北部で検出した、深さ10㎝のピットである。北半は調査区外になるため、北壁で土層確認を行った。2面上面から掘り込まれており、覆土は1面整地土17層に由来する。

溝1655　調査区北西部で検出した、長さ2.4 m・深さ8㎝の断面皿状を呈する南北に延びる溝である。軸はN－6°－Eをとり、北は調査区外へ続く。幅は北部では約20㎝であるが、北から30㎝の地点で急激に幅を広げて南へ伸び、東に角度を変えたところで石列34にともなう窪みと合流する。最大幅は約60㎝を測る。遺物の出土はない。

溝1672　調査区中央西側で検出された、長軸をN－86°－Eにとる溝である。長さ80㎝・深さ8㎝、断面は浅い皿状を呈する。西は調査区外に続いており、東端部は溝1655を切って止まっている。遺物の出土はない。

石列34　調査区中央やや北東寄りで検出されたN－7°－Eに軸をとる遺構である。石材は総じて輝石安山岩を用い、粗割りなど加工の痕跡は見られない。32～38㎝大のやや角ばった礫4個を長軸方向に長手に配置する。その底面は2・3面に着地するため、本面の遺構として扱ったが、石材の大半は17層中にあるため、1面初期の遺構とすべきかもしれない。石列の西側には溝状の窪みが伴うが、性格は不明である。この窪みは南端で溝1655と合流しており、一体のものと考えられる。なお4次調査では、本遺構と同様

に 1 面最下層（4 次 17 層）にともなう南北軸の石列（石列 25）が確認されており、検出状況からみて本址はこれと一連の遺構と考えられる。

(3) 1 面の遺構

P1657　調査区北東隅で検出した。深さ 32 ㎝で、南側は調査区外に続く。覆土中に礫を多く含む。遺物の出土はない。

柱穴列 21　P1658･1659 で構成される柱穴列である。軸はN－84°－E、柱穴間の距離は 1.3 mを測る。ピットの深さは双方とも 14 ㎝で、直径 33 ㎝前後で円形ないし楕円形を呈する。

杭 1・2　1 面上面で検出されたもので 1 対と考えられ、軸はN－80°－Eにとり、柱間の間隔は 1.9 m である。杭 1 は部材の芯部が残存しており、先端を鋭利に加工している。杭 1 は溝 1655 の底面（18 層）に達していた。

土塁状盛土　4 次調査 4A1 トレンチで確認された土塁状盛土（4 次調査報告の段階では「土塁」と表記）と一連の遺構である。1 次調査 A 区の東端でも西縁部のラインが確認されており、N－9°－E に走ることが判明している。土塁状盛土の上面は調査区北部では平坦面を形成しているが、これは 4 次調査の所見と同様、後世の削平によって盛土上部が失われてしまったとひとまず判断しておきたい。盛土上面は中央部から南に向かって傾斜しており、2･3 面に着地する。このことから、4 次調査区から延びてきた土塁状盛土は、本調査区の中で完結していることが明らかになった。斜度は 23°で、後世の旧表土がこの傾斜を踏襲するようになだらかな斜面を形成しているところを見ると、近代までこの地形は継続していたと考えられる。本調査において土塁状盛土の南端が判明したことにより、1 次・4 次両調査での成果を踏まえると、この土塁状盛土の総延長は 19 m以上に及ぶことになる。北部が攪乱によって断絶しているが、本来はさらに 10 数 m程延びていたと推測される。遺構の東辺が未確認であるため、本遺構を土塁であると断定するにはまだ情報が不足しているが、1 次調査区東端では 40 ㎝程高まる盛土の西縁部が確認されており、少なくとも西側に広がる平場よりも 1 段高い構造になっていたことがわかる。いずれにせよこの土塁状盛土は、1 次調査区の平場の東端を区画する施設であったと考えることができるだろう。

2　6A2 トレンチ（第 3・4 表、第 11 ～ 14 図）

(1) トレンチの概要・土層構成・遺構の概要

本調査区は 1 次調査 A 区の北西部、標高 641 m地点に位置する、長さ 16.4 m・幅 3.2 m、総面積 54 ㎡のトレンチである。1 次調査時にこの場所においてHトレンチを掘削し、遺構の存在を確認したが、壁面崩落で遺構の平面確認が困難となり、記録を断念した経緯がある。本調査では、Hトレンチに重複させてトレンチを再設定し、改めて平場西側の範囲の確認および土層や遺構の記録を行うこととした。

調査区の現況はぶ厚いグラウンド盛土によってほぼ平坦面となっている。その盛土を 2 mほど重機で除去して昭和 28 年までの表土を検出したのち、さらに旧表土を 20 ～ 25 ㎝掘り下げたところで、遺構面第 1 面に到達した。この面は 1 次調査における 1 面に相当するものと考えられる。また、旧Hトレンチも、調査区北半部で再確認された。このトレンチは南北幅約 1 mを測り、すでに地山までの掘り下げが完了しているため、地山面上での遺構再検出となった。本調査区における整地土は東側に分布しており、西側は地山面が遺構検出面となっている。攪乱により整地土が削平されてしまった可能性もあるが、全体的に整地土の痕跡が見られないことから、ここを整地土面の北西端と捉えることができる。

土層構成　本調査では、1 次調査では確認できなかった遺構面が 1 ～ 3・4 面まで 3 面検出された。1 面は褐色土で構成されており、しまりの強い整地土層である。1 層ごとの厚みは約 5 ～ 6 ㎝ほどで、薄い整地土が調査区東端から 8 m西まで続いている。この面からは、遺構が多く検出されている。2 面整地土は中

央部でわずかに見られるのみであり、調査区西部で1面と合流するため、それより西は第6層上面が1・2面となる。この面は西端の地山面上で3・4面とも合流する。層自体は極めて薄く遺構も乏しいため、2面段階のトレンチ周辺は遺構分布域の外縁だったと考えられる。3・4面は暗褐色を基調とする極細粒砂層で、1～2面整地土と比べるとやや粗く、地山由来の黄褐色ブロックが多く含まれている。3・4整地土を除去すると地山面に到達するが、本調査区において地山は拳～人頭大の礫を多量に含む礫層と、混入物の少ない黄色地山の2種類の土壌で構成される。前者は調査区の東部に、後者は調査区の西部に広がっている。

遺構の概要　1面段階の遺構はピットや土坑をはじめ、建物址や柱穴列など、内容が多岐にわたる。特に調査区中央部は遺構の集中が顕著であり、遺物を多量に伴う土坑（土1693）や掘立柱建物址などが集中している。2面の遺構で確実なものは、P1694と土1710の2基のみである。3・4面の遺構としては、ピットが5基と土坑が1基検出された。この他に面の特定が出来ない遺構が多数ある。

（2）3・4面の遺構

ピット群（P1661・1669・1672・1683・1684）　3・4面のピットは5基確認しており、このうちP1661・1672・1683・1684は、南壁沿いのサブトレンチを掘り下げた際に検出した。深さは浅いものは6㎝、深いものは19㎝で、調査区外に続くものが多いが、いずれも円形を呈すると考えられる。P1661の深さは15㎝であり、中央部では柱痕が確認出来た。本面のピットでは遺物の出土はなかった。

土1721　調査区西部の南寄りに位置する、楕円形の土坑である。断面は逆台形を呈しており、底面は平らになっている。確認範囲での長径は35㎝を測るが、南部が調査区外に延びるため、本来の大きさはわからない。深さは15㎝で、遺物の出土はない。

（3）2面の遺構

P1694　調査区中央部の南に位置し、南部が調査区外に広がる円形ピットである。深さは7㎝で、遺物の出土はない。

土1710　調査区中央部のやや西寄りで検出した。長軸90㎝、短軸82㎝の隅丸方形の土坑で、主軸はN－30°－Eにとる。北半部はHトレンチで削られており、下層のみ残存していた。深さは29㎝で、遺物の出土はない。東半部の一部を1面の土1704に切られる。

（4）1面の遺構

ピット群　1面で検出されたピットの数は21基に及び、本調査区では最も遺構が多出する面となった。ピットは総じて円形ないし楕円形を呈しており、深さは浅いもので6㎝、深いものでは38㎝になる。特にP1660やP1681は30㎝を超える深さで、柱痕も明瞭に確認できる。これら1面のピットは、調査区の東半部に集中して分布している。

土1680　調査区中央部のやや西寄りに位置する、長軸1.18 m、短軸1.03 mの隅丸方形を呈する土坑である。1面で検出された土1710と相似形をなすことから、性格の似通った遺構と考えられる。深さは27㎝で、断面は逆台形である。主軸をN－36°－Eにとる。遺物の出土はない。

土1692　調査区西半部中央寄りで検出した。南部の大半が調査区外であるため、長径を測ることはできない。調査区南壁で土層断面を確認したところ、深さは50㎝で、覆土は炭を多く含む粘土層であった。出土遺物は土師質土器が皿を主体に8点程出土し、常滑の甕（13）も見られる。また覆土中層からは照寧元宝が出土している（58）。後述する土1693との位置関係や類似点から、長軸を南北にとる隅丸長方形のプランと考えられ、これを踏まえると本遺構の主軸はN－13°－Eとなろう。

土1693　調査区中央に位置し、主軸をN－10°－Eにとる隅丸方形の土坑である。南北1.1 m以上、東西0.76 mを測り、南部は僅かに調査区外へ続く。深さは40㎝で、覆土は上層と下層で違いがある。前者は暗褐色を基調とする土、後者は炭を多量に含む黒褐色土で、いずれも人為堆積である。本遺構からは多

量に遺物が出土している。その大半が土師質土器皿であり、完形やそれに近いものも含まれていた（16～17）。これらは本遺構中央部のやや東寄りで、10～40㎝大の礫とともに集中しており、いずれも覆土下層の黒褐色土上面から見つかった。このほか古瀬戸の卸皿(18)や、花菱紋と連子紋を外面に押捺した風炉(19)も出土している。

土1704　調査区中央部に位置する、長径1.2 mの土坑である。深さが13㎝と浅いため、北半部がHトレンチの掘削で消失している。方位はN－77°－Wを向き、2面土坑1710を切る。

柱穴列22　P1705・1713・1730で構成される2間の柱列だが、北に広がる掘立柱建物址の可能性もある。調査区西半部北側に位置し、軸をN－79°－Wにとって東西に連なっている。柱間はP1705－P1713間が2.35 m、P1713－P1730間が1.95 mを測る。ピットはいずれも円形を呈し、深さはP1705が25㎝、P1713が36㎝、P1730が21㎝である。特にP1713では柱痕が明瞭に見られる。

建14　調査区の中央部に位置する、南北1間以上・東西3間の掘立柱建物址である。規模は南北1.75 m・東西4.6 mで、東西軸はN－77°－Wにとる。構成しているピットはP1686・1691・1695・1697・1701・1706・1679の7基で、柱間は東西1.35～1.5 m・南北1.65～1.76 mを測る。東から1間目の南ピットは、土1693によって失われている。ピットの深さは10～20㎝がほとんどで、10㎝に満たないごく浅いものから、30㎝に達するものまでバラつきがある。浅いピットは南側の列に見られることを考えると、本址は南に広がるのかもしれない。

(5) その他の遺構

本調査では、1～3・4面の各段階の遺構を確認したが、この他に面を特定できないものがある。調査区西部の地山面上で検出されたピット群や、1次Hトレンチ内で検出された遺構がそれである。前者は整地範囲外の地山面上にあり、平場の造成開始以前の遺構も含むと考えられるが、時期を特定するには至らなかった。後者については1次調査の際に上層の整地土を掘り抜いたため、掘り込み面を確認することができない。こうした状況において面が特定できない遺構は、土坑2基とピットが20基ある。中でも調査区西側の中央に位置するP1715は、残存状態の良好な楕円形ピットで、深さは44㎝、断面はU字形を呈し柱痕が残る。調査区東端のP1665では、深さ14㎝の楕円形ピットで平安時代の黒色土器片が出土している。なお、これらの遺構は全体図においては便宜上1面の図に示した。

3　6D1トレンチ（第3・4表、第15図）

(1) トレンチの概要・土層構成・遺構の概要

トレンチの概要　本調査区は1次調査区から約170 m北の標高657～659 m地点に位置する。廣田寺の南西にあたるこの場所は、南へ向かって緩やかに傾斜した面を形成し、現在は畑として利用されている。今回は殿村遺跡の北限の範囲確認のため、ここに南北26.5 m、東西9.7 mの十字形のトレンチを設定して調査を開始した。トレンチの面積は48㎡で、軸は東に27°傾く。まず重機で表土を除去し、2層目の下部を人力で掘り下げたところ、20～25㎝の深さで地山に達してしまい、整地土は確認されなかった。従って、本調査区では造成面は存在していないことが明らかとなった。

土層構成・遺構の概要　本調査区における土層は、3層に分かれる。1層目と2層目はいずれも耕作土であるが、2層目は畑作により地山上層が攪乱され、土壌化が進んだ土と考えられる。3層目は地山で、本調査区における遺構検出面にあたる。黄褐色の極細粒砂層で、畑作による攪乱が多く入る。時折鉄石安山岩の礫を含むこの面からは、中世のピットが検出されている。

(2) 遺構の詳細

本調査において確認出来た遺構は、中世のピット2基（P1601・1602）のみである。P1601はトレンチ

が交差する調査区の中央部にある。深さ 15 ㎝の円形ピットで柱痕が見られ、その覆土中から内耳鍋片（24）が出土した。P1602 は楕円形を呈するピットで、調査区中央部のやや西寄りに位置する。地山内に含まれる輝石安山岩の大礫に挟まれるように掘り込まれており、深さは 15 ㎝である。遺物の出土はない。

4　6D2 トレンチ（第 3・4 表、第 16 ～ 21 図）

(1) トレンチの概要・土層構成・遺構の概要

トレンチの概要　6D1 トレンチとともに遺跡北部における整地土範囲の確認を目的として調査を行った。本調査区は 1 次調査区の北約 140 m地点にあり、6D1 トレンチの南東に位置する。標高は 650 ～ 655 m である。対象地は 6D1 トレンチ同様平坦面となっており、本来の傾斜より緩い。現況において平坦面の東西幅は約 35 m、南北幅 37.5 mを測る。東側の僅かな空地を除いてほぼ全面放置された桑畑となっており広範囲の調査が行えないため、空地となっている道路沿いの平坦面にトレンチを設定して調査を行うこととした。代わって桑畑は、晩秋に桑の落葉を待ってから 10 箇所で試掘調査を実施した（a ～ j トレンチ）。トレンチの規模は南北約 21 m・東西 1.5 mで、重機で表土を除去すると 30 ～ 35 ㎝ほどの深さで整地土面が現れ、複数の遺構を検出した。ただし検出面が浅いため、畑の耕作によって整地土の上部が削平・攪乱を受けており、消失した遺構もあると考えられる。桑畑の抜根による溝状の攪乱も随所で見られた。平面的な調査はこの遺構面のみとしたが、断面調査として西壁沿いにサブトレンチを設け、地山面までの掘り下げを行った。その結果、本調査区の整地土層は大きく 6 段階に区分でき、上下 2 段構造の平場上段を段階ごとに南へ拡張していたことが明らかとなった。このうち第 2 ～第 5 段階においては、上段平場前面に石積や石列を配している。整地土は厚いところでは 1 mに達し、地山面が北へ向け緩やかに高まっていくのに対し、平場を形成するための整地土層は徐々に厚さを減じ、トレンチ北部では 15 ㎝程度となる。このことから、整地土は敷地北端で収束すると考えられる。6D1 トレンチの敷地までは平場が続かないため、ここが A 区から続く平場群の北端と考えられよう。造成された平場は、その後の流出等の影響を受けつつも、現在の地形に受け継がれていると考えられる。なお、調査区外にも遺構が広がると予想された箇所については、各所でトレンチの拡張を行った。これにより桑畑内に設けた試掘トレンチも含め、調査区の総面積は 86 ㎡となる。

土層構成　前述のように本トレンチの土層構成は、6 段階に分けることが出来る。各段階とも 1 次調査区における面との直接的な対応関係は分からないため、本調査区ではこれを「段階」と称した。第 6 段階は本調査区で最も新しく、褐色～暗褐色を基調とする整地土である。地山由来の黄褐色ブロックを少量含み、シルトないし極細粒砂のきめの細かい土で構成されている。主として南拡張区で見られ、厚さは 40 ～ 50 ㎝になる。土師質土器や青磁、陶器が出土している（45 ～ 48）。第 5 段階の整地土は褐色または暗褐色で、第 6 段階よりも黄褐色ブロックの混ざりが多くなる。石列 28 に伴う段階の土で、石積 G の前面を埋め、切岸状の急角度の法面となって石列 28 の天端に達する。石列 28 の前面すなわち下段の平場にも同段階の整地土が見られ、南へ 6.7 m延びて調査区外へ続く。この段階の整地土からは、内耳鍋や古瀬戸皿（43 ～ 44）が出土した。第 4 段階の整地土は石積 G の裏込め土で、褐色土と黄褐色土を版築状に盛土している。黄褐色ブロックを大量に含み、ブロックの大きさは φ30 ㎜～ 50 ㎜で、全体的に斑状を呈する。また、他の段階とは異なり、層理は傾斜し石積 G とその背後の裏込めを施した後、後方の埋め立てを進めた過程が読み取れる。遺物は内耳鍋や緑釉小皿、天目茶碗が出土した（40 ～ 42）。第 3 段階は石列 29 に伴うもので、褐色土と暗褐色土で版築状に整地している。この土も黄褐色ブロックを含むが、第 4 段階と比べて粒径が小さい。この段階も石列 29 構築に際し下段の平場にも貼り土を施しており、その広がりは石列 28 直下にまで及ぶ。第 2 段階は石列 30 の裏込め土であり、褐色土が 20 ㎝ほどの厚さで 3 層に盛られている。黄褐色ブロックを多量に含んでいる。第 1 段階は本調査区において最も古い段階の整地土であり、調査区の北

端から石列 29 の下端まで、南北 18 mにわたって広がっている。この段階では上段平場の前面に石による構築物は設けられず、下段との段差は緩く傾斜した法面をなす。斜度は 19°を測る。土色は暗褐色や褐色を基調としている。この層からは遺物の出土が最も多く、土師質土器や古瀬戸、青磁などが得られた（28～38）。本トレンチの遺構も、この段階の整地土が広がる北半部で多く検出されている。

遺構の概要　本調査で検出した遺構は、ピット 43 基、溝状遺構 6 基、炉址 1 基、不明遺構 1 基、石列 4 基、石積 1 基である。いずれも上段平場から検出したもので、下段平場に伴う明確な遺構は確認できなかった。石列や石積は整地土の段階を区分するにあたって指標となるものであるが、それ以外の遺構については、いずれの段階から掘り込まれたものであるか断定するのは難しい。例えば調査区北部に位置するＰ 1609 や溝 1603 など、第 1 段階整地土上面で捉えた遺構であっても、第 1 段階整地土上面は第 2 段階以降も生活面として使用されているため、遺構が掘りこまれたのは必ずしも第 1 段階とは限らないのである。よって次項では遺構を段階分けせず、種別ごとに詳細を述べていくこととする。

（2）遺構の詳細

ピット群　本調査区では、45 基のピットが確認されている。ほぼ全てが円形を呈し、直径は小さいものは 5 ㎝、大きいものは 60～70 ㎝である。深さは 5 ㎝程の浅いものから、60 ㎝以上に達するものもある。なかでも P1609 は深さ 66 ㎝を測り、本調査区においては最も深いピットとなる。本址には柱痕も確認出来た。この他 P1608・1618・1619・1639 なども深さ 30～40 ㎝と深く、柱痕を残す。断面で柱痕が確認できるピットは、総じて断面逆台形を呈するものが多い。なお、柱痕を残すピットは掘立柱建物や柱穴列を構成する可能性があるが、調査範囲が狭いため平面的に確認することは出来なかった。

溝 1603　調査区北部に位置し、東西に延びる溝である。両端が調査区外に続くため、全長は分からない。確認範囲での長さは 1 m で、東部を P1604 に切られている。幅は東で 43 ㎝を測り、西へ向かうにつれて急激に幅を広げる。最大幅は 1.03 m、深さは 31 ㎝である。長軸方位は N－62°－Wにとる。

溝 1605　調査区北部に位置する東西に延びる溝で、長軸方向は N－76°－W を指す。両端は調査区外に続くため全長は不明だが、確認範囲では 1.4 m である。東西両端の幅が広く最大 1 m を測るが、中央部では極端に幅を狭め、20.5 ㎝となっている。深さは 25 ㎝を測る。

溝 1614　調査区北部に位置し、30.8 ㎝幅をほぼ均等を保ったまま北西から南東に走る溝である。両端は調査区外に続く。長軸方位はN－10°－Wを指し、長さは 2.5 m、深さは 20 ㎝を測る。

溝 1616　調査区中央部のやや北寄りにあり、長さは 2.9 m以上で、南西部を炉 1621 に切られている。幅は 20 ㎝前後であるが、北東端では 30 ㎝とやや広がったところで止まっている。長軸方位はN－42°－Eにとる。確認範囲での長さは 3.2 m、深さ 4 ㎝の浅い溝である。南西端は調査区外に続く。

溝 1620　調査区中央部のやや東寄りに位置する、全長約 0.9～1.0 m の短い溝である。溝 1616 と 0.9 m の間隔を置いて並行しているが、中央部でやや湾曲する。幅は北東部は狭く 10 ㎝に満たないが、屈曲部から徐々に広さを増し、最大幅は 27 ㎝となる。北東端は P1619 で切られ、南端は P1624 と接する。長軸方位はN－36°－Eにとる。深さは 6 ㎝を測る。

溝 1637　東拡張区で検出された深さ 24 ㎝の溝である。北西から南西に向かって走り、中央部では幅を減じるとともにやや蛇行する。最大幅は 89 ㎝を測り、長軸方位はN－53°－Wにとる。当初は溝 1605 の続きとも思われたが、長軸が異なり連続しないため別遺構と判断した。北西端を P1650 に切られている。なお、中央部の覆土中から、土師質片口鉢の口縁部（28）が出土している。

炉跡 1621　調査区のほぼ中央部に位置する。溝 1616 を南西端で切っており、直径は 35 ㎝、深さは残存値で 6 ㎝を測る。覆土中に硬化した焼土層（1 層）が見られ、耕作による攪乱が著しいものの、炉床だったと考えられる。

不明遺構 1622　調査区中央部のサブトレンチ内で検出された。この遺構は掘り込まれた段階がわかる唯一のもので、壁面土層から第 1 段階の造成に先立つ地山面直上の遺構とみられる。僅かな範囲での確認のため、遺構の全貌や性格を明らかにすることは出来ない。造成前の地山面上で検出されたことで、古代の遺構ではないかと考えたが、覆土中から土師質土器皿（25 ～ 26）と古瀬戸皿（27）が出土したことから、本遺構も中世に属するものであると判明した。深さは 8 ㎝である。

石列 28　第 5 段階の遺構である。主軸をN－ 58°－Wにとり、平場先端の法尻に 1 段 1 列に配置されていた。第 3 段階の下段平場表面化粧土（41 層）の上に乗る。石材は輝石安山岩の自然石で、大きさに統一性は見られず、幅と奥行の関係にも厳密な法則は無い。法面が残存している東半部を見ると、築石の半分以上は貼土で覆われ、前面だけが露出していた。石列は西から 4 ないし 5 石で途切れ、それより東は土坡となり、本調査区より東には続かない可能性が高い。検出範囲での長さは東西 1.2 m、法面の角度は 26°である。

石列 29　第 3 段階の遺構であり、石列 28 と同様 41 層の上に構築されている。主軸をN－ 57°－Wにとり 1 列に並べられているが、部分的に前後 2 列になる。いずれも輝石安山岩の自然礫を用いたものである。石材の配し方は必ずしも統一性はないが、東側では長手に置き、奥行きが短い。本調査区内で検出できた部分の長さは東西 1.4 m、東西端は調査区外に続く。背面の小礫や裏込土のあり方から、本来は 3 段前後の石積であった可能性が高い。

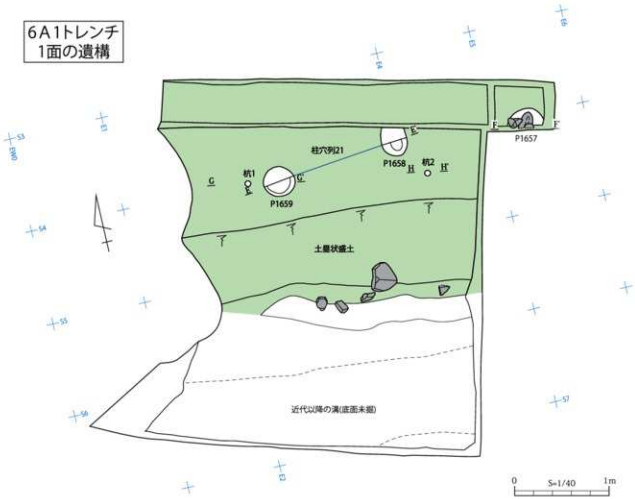
石列 30　第 2 段階の遺構である。検出した石材は 1 個のみであったが、調査区西壁の壁面土層での観察結果から、本址も元々は石積だった可能性が高く、第 3 段階の造成に伴って石材が除去されたものと考えた。石材は輝石安山岩の自然石で、第 1 段階の整地土（50 層）の上面に構築されている。

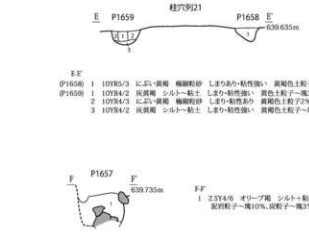
石列 31　南東拡張区で確認された遺構である。主軸はN－ 6°－E とほぼ真北にとる。石材は輝石安山岩を使用しており、意図的に割られたものはない。大きさや形に統一性は見られず、性格は不明である。本遺構は平場上に溝状の浅い窪みを掘り、そこに別の土を盛ったうえで石材を配置している。時期等は特定できないが、石列にともなう盛土が第 6 段階の整地土の上にあるため、第 6 段階以降のものと考えたい。遺構の規模は南北長 1.6 m で、南は調査区外へ続いている。

石積 G　調査区南部で確認された、第 4 段階の平場前面を画する石積である。長軸はN－ 59°－Wにとり、輝石安山岩の角ばった自然石を利用しているが意図的な加工痕は見られなかった。規模は東西 2.2 m を測り、両端は調査区外へ続く。積石は 3 段積みで高さは 50 ㎝前後、横目地が通る布積みを行っている。西半部の天端石は比較的大きい石を使用しており、最大幅は 36 ～ 38 ㎝を測るが、東半部のものは 20 ㎝前後とやや小ぶりで天端も高さが揃わない。石材の配し方は 2 段目において比較的平らな石材の長手積みが顕著で、最大幅は 62 ㎝である。1 段目は総じて幅 30 ～ 35 ㎝・高さ 20 ㎝前後の石を用いているが、平石ではないため表面に凹凸があり、2 段目との間に隙間が見られる。また、築石の間に間詰めの小礫もみられた。石積は第 4 段階の造成土（30 層）の上面に乗っており、石積の構築に際し一旦貼土を行って基盤を構築したことがわかる。なお、本遺構が構築された段階における上段平場の規模は、南北長 20 m前後である。

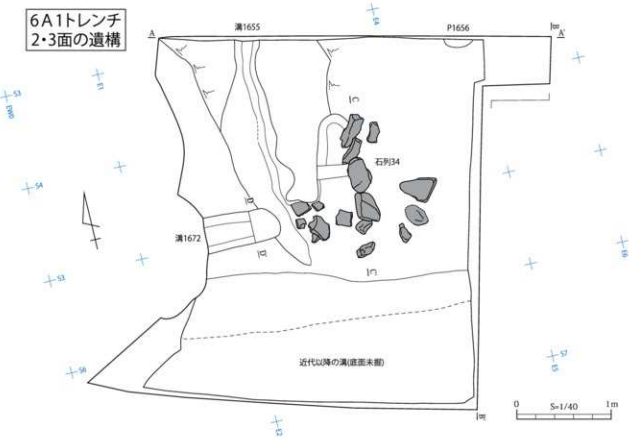
（3）6D2 試掘トレンチ（第 21 図）

平場の範囲を確認するにあたり、6D2 トレンチの西側の桑畑の中に 1×2 mのトレンチを 10 箇所設定した（a ～ j トレンチ）。ほとんどのトレンチでは 15 ～ 30 ㎝掘り下げたところで整地土が現れ、平場の続きを確認することができたが、北西部に設定した f トレンチでは 25 ㎝掘り下げると地山に到達し、整地土は見られなかった。これにより、平場造成にあたって地形面の高い f トレンチ付近では、盛土ではなく切土が行われたものと考えられる。遺構は c トレンチでピットを 2 基検出している。b トレンチでは集石を確認したが、配し方に規則性が見られなかったため遺構と断定するには至らなかった。遺物は g トレンチより近世陶器の碗（55）が 1 点出土している。

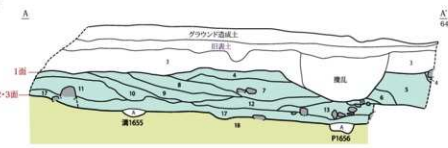




第９図　6A1 トレンチ（1）

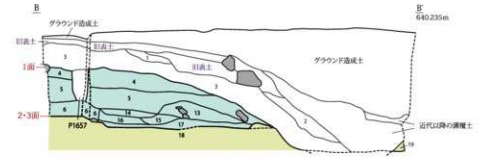


北壁面断面図



溝1655　A　2.5Y5/2　暗灰黄　粘土　しまり・粘性強い　黄褐色土塊10%、黄色土粒子～塊5%、炭粒子2%含む、17層に類似。
P1656　A　10YR6/2　灰黄褐　シルト～粘土　しまり強い～粘性あり　黄褐色土塊5%、黄色土塊3%、白色粘土塊1%、炭粒子2%含む。

東壁面断面図



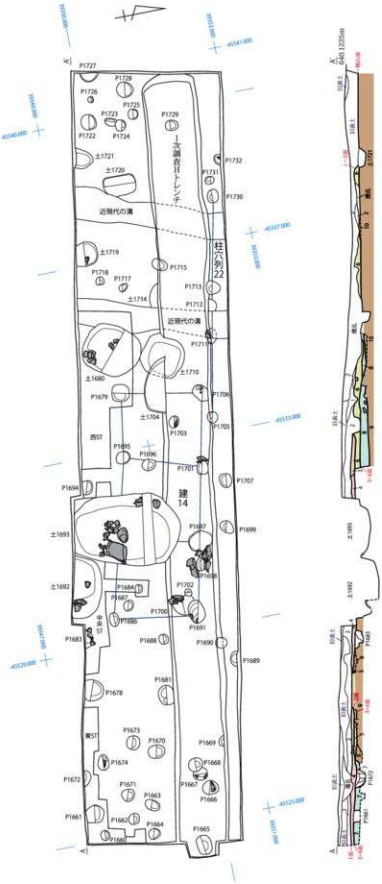
石列34エレベーション

溝1672

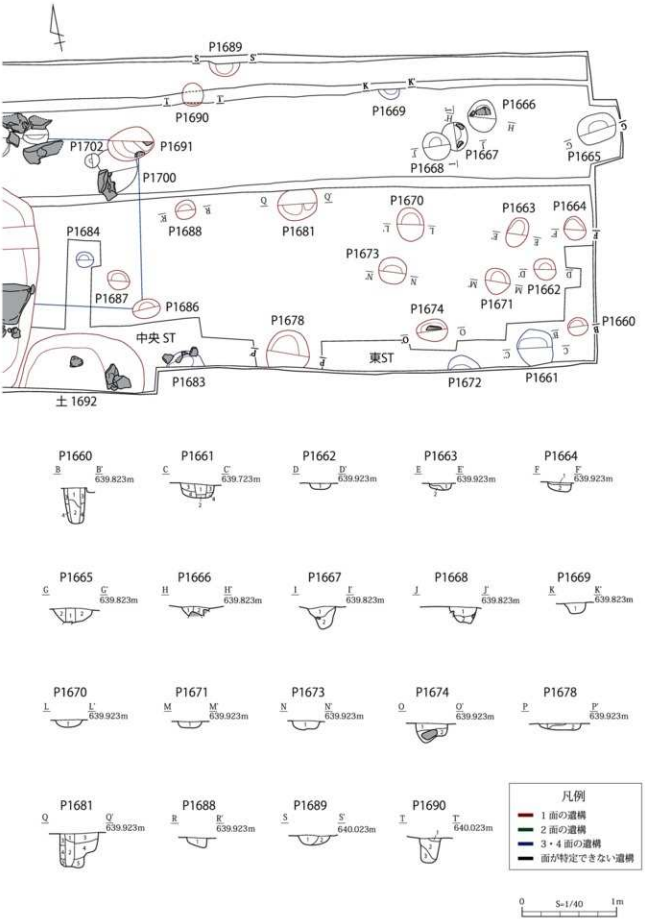
D-D'
1　10YR6/2　灰黄褐　シルト～粘土　しまりかなり強い～粘性あり
　　配石塊10%、黄色土粒子～塊5%、炭粒子～塊3%、焼土粒子1%含む。

第 10 図　6A1 トレンチ（2）

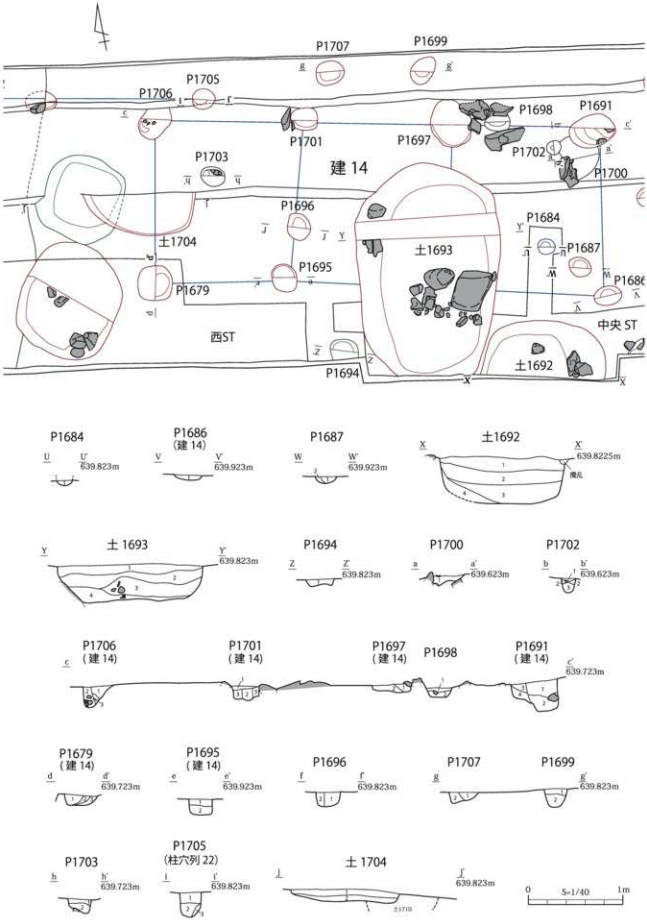
6A2トレンチ



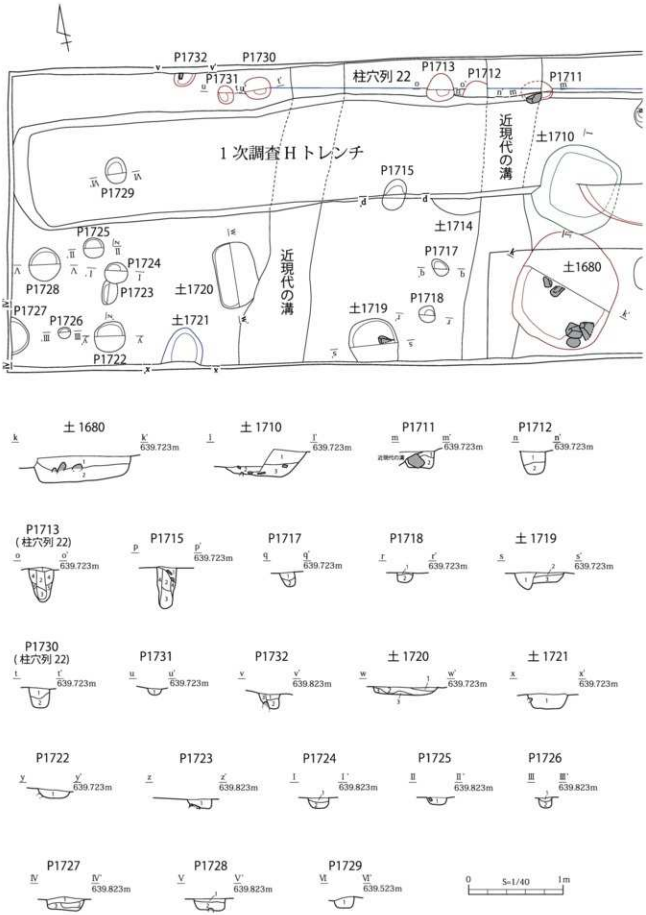
第 11 図　6A2 トレンチ



第 12 図　6A2 トレンチ遺構断面図（1）

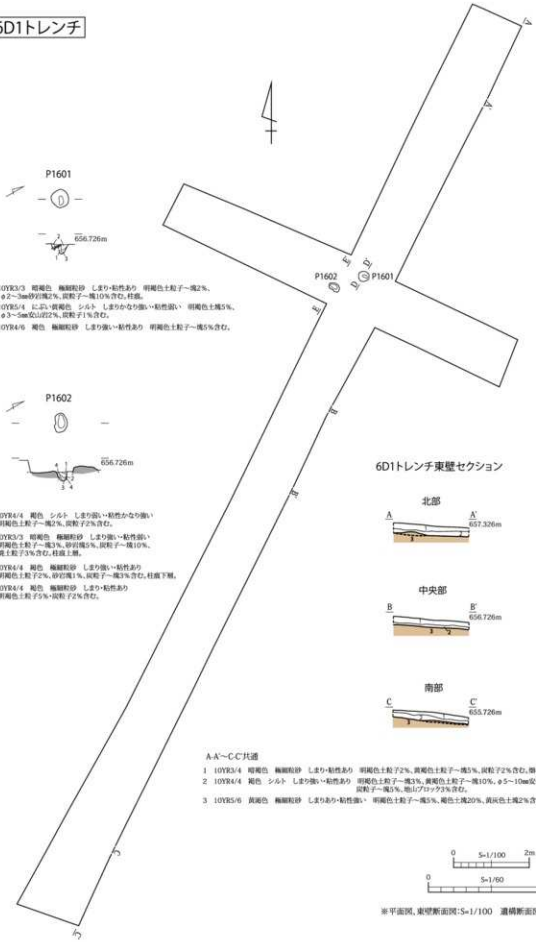


第 13 図　6A2 トレンチ遺構断面図（2）



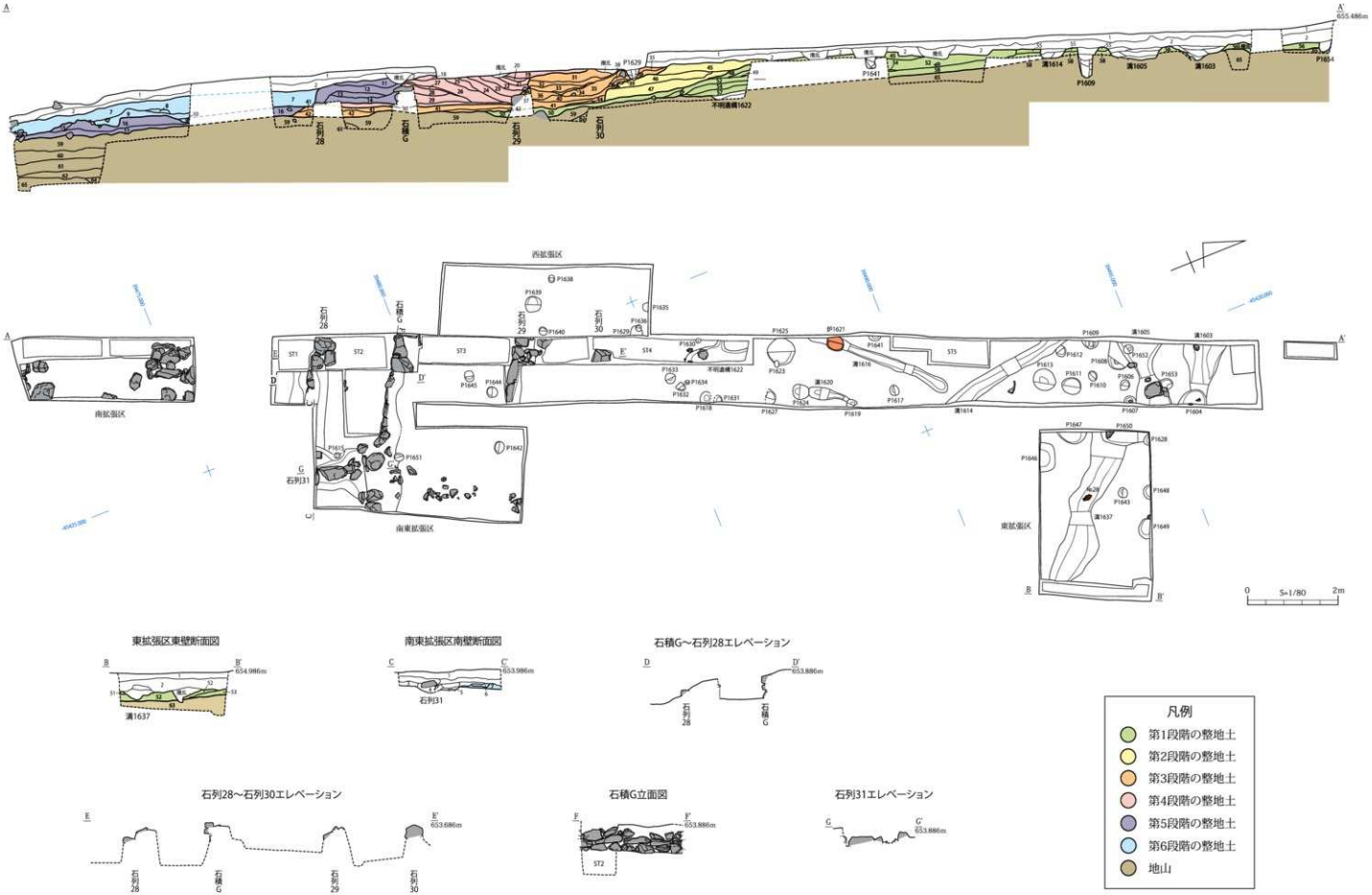
第 14 図　6A2 トレンチ断面図（3）

6D1トレンチ

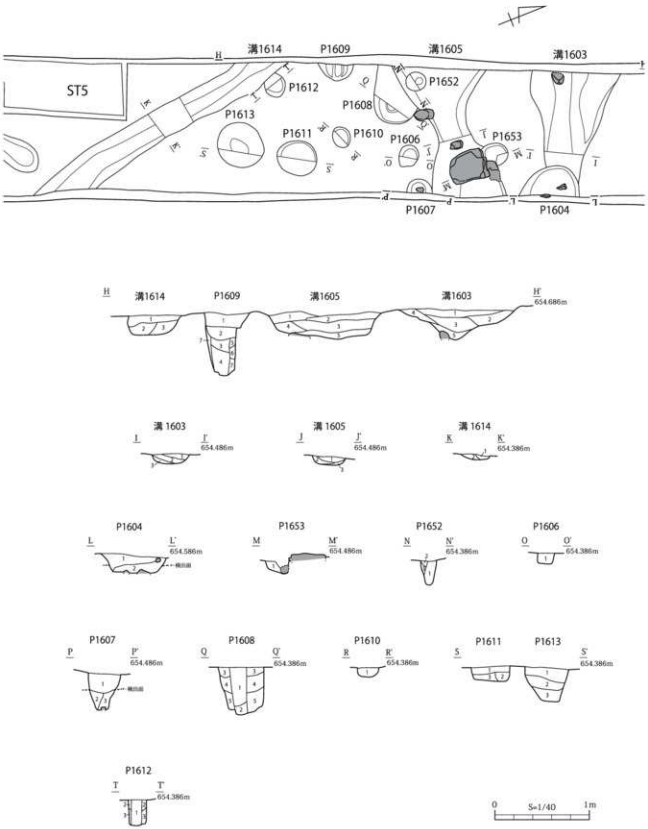


第15図 6D1 トレンチ

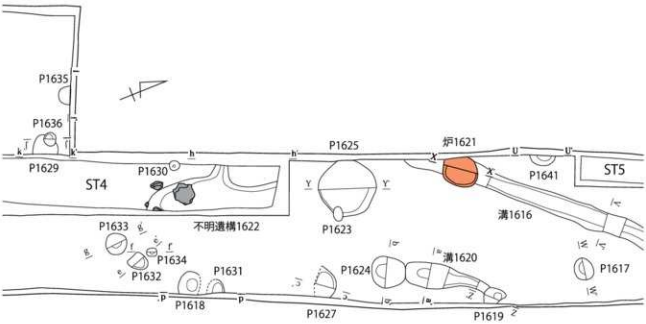
6D2トレンチ

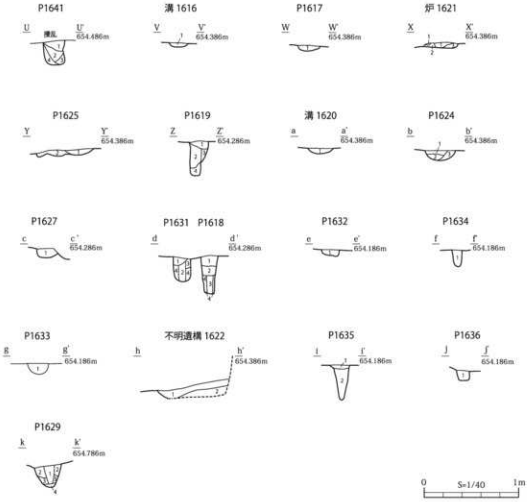


第16図　6D2 トレンチ



第 17 図　6D2 トレンチ遺構断面図（1）





第 18 図　6D2 トレンチ遺構断面図（2）

西拡張区

石列28

石積G

石列29

石列30

ST2

ST3

P1638

P1639

P1640

P1645

P1644

P1642

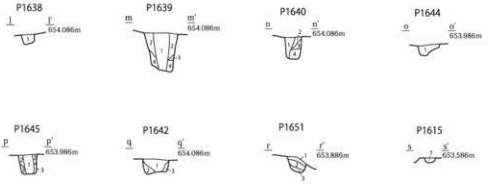
P1615

P1651

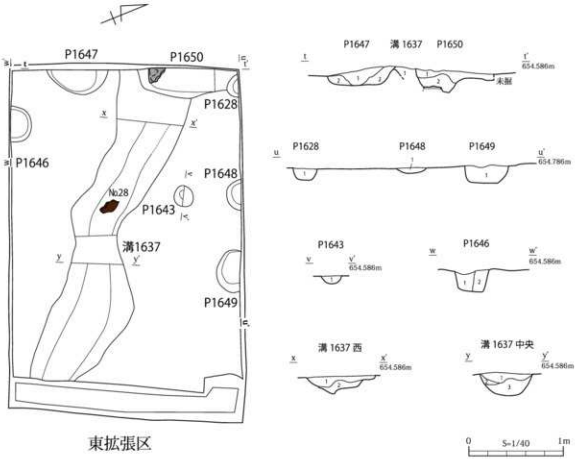
石列31

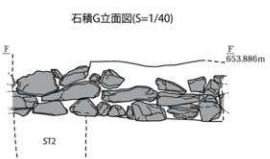
0 S=1/40 1m

南東拡張区

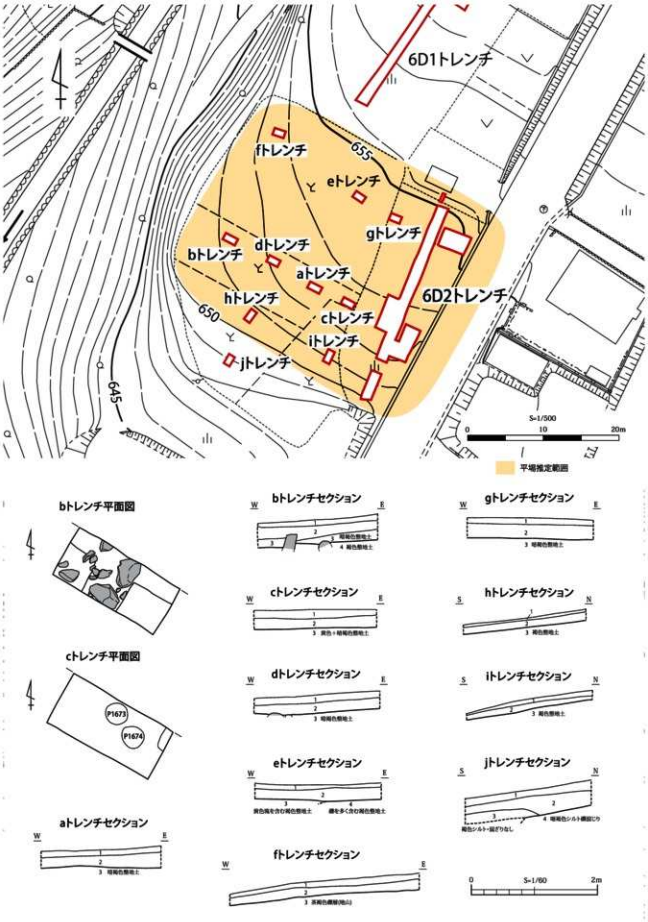


第19図　6D2トレンチ遺構断面図（3）





第 20 図　6D2 トレンチ遺構断面図（4）



第 21 図　6D2 試掘トレンチ

第３表　壁面土層一覧

No.	土色		土質	しまり	粘性	含有物	性格	堆積	備考
6A1 トレンチ									
1	10YR5/6	黄褐	シルト	かなり強い	やや弱め	黄褐色粒～塊 15%・赤褐色粒～塊 5%・φ５mm礫 1%含む	旧表土２層目		土壌化
2	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒～塊 5%・明褐色粒～塊 10%・φ５mm礫 2%・炭粒～塊 2%含む	〃３層目		〃
3	2.5Y4/6	オリーブ褐	極細砂	強い	強い	明褐色粒 7%・炭粒～塊 3%含む	〃４層目		〃
4	10YR5/6	黄褐	極細砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 5%・明褐色粒～塊 7%・白色粒～塊 10%・φ5 mm礫 3%・炭粒 1%含む	１面整地土	人為	
5	2.5Y4/6	オリーブ褐	粘土に近いシルト	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊 15%・白色粒～塊 15%・炭粒～塊 5%含む	土塁状盛土	〃	
6	2.5Y4/4	オリーブ褐	粘土に近いシルト	かなり強い	あり	黄褐色塊 15%・白色粘土塊 15%・φ 20 ～ 30 mm礫 3%・炭粒 2%含む	〃	〃	
7	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	かなり強い	あり	黄褐色塊 20%、砂岩塊 2%・白色粘土塊 15%・φ10 ～ 30 mm礫 2%・炭粒～塊 3%・拳～人頭大安山岩多量に含む	〃	〃	
8	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	かなり強い	やや弱め	黄褐色塊 20%、白色粘土塊 3%・φ５～ 10 mm礫 3%・炭粒 1%含む	〃	〃	
9	10YR5/3	に ぶい黄褐	シルト＋極細砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 30%・白色粘土塊 3%・炭粒～塊 7%含む	〃	〃	
10	10YR5/3	に ぶい黄褐	シルト	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 20%・黄色粒～塊 15%・白色粘土塊 2%・炭粒～塊 5%含む	〃	〃	
11	10YR5/3	に ぶい黄褐	シルト＋粘土	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 20%・黄色粒～塊 20%・φ 20 mm礫 1%・炭粒～塊 5%含む	〃	〃	
12	10YR5/3	に ぶい黄褐	シルト＋粘土	かなり強い	強い	黄褐色塊 20%・砂岩塊 1%・黄色粒 10%・白粘土塊 5%・拳～人頭大安山岩多量・炭粒 2%含む	〃	〃	
13	10YR4/3	に ぶい黄褐	粘土	あり	強い	黄褐色塊 30%・黄色粒～塊 10%・炭粒～塊 10%・焼土塊 3%含む	〃	〃	
14	10YR5/6	黄褐	粘土	あり	強い	黄褐色粒～塊 15%・黄色粒 7%・白色粘土塊 5%・炭粒 2%含む	〃	〃	
15	10YR4/2	灰黄褐	シルト＋粘土	強い	強い	黄褐色粒～塊 30%・砂岩塊 3%含む	〃	〃	
16	2.5Y4/6	オリーブ褐	粘土に近いシルト	あり	あり	黄褐色粒～塊 10%・砂岩塊 1%・白色粘土塊 2%・炭粒 2%含む	〃	〃	
17	5Y5/1	灰色	粘土	強い	かなり強い	黄褐色粒～塊 15%・白色粘土粒～塊 10%・炭粒～塊 20%含む	１面土塁状盛土最下層	〃	４次調査の第 17 層に相当
18	2.5Y5/3	黄褐	粘土に近いシルト	かなり強い	あり	黄褐色塊 40%・砂岩塊 7%・炭粒～塊 7%・焼土粒 2%含む	２面整地土	〃	
19	10YR4/2	灰黄褐	シルト＋極細砂	あり	あり	黄褐色粒 10%・黄褐粒 3%・炭粒～塊 5%含む	〃	〃	
6A2 トレンチ									
1	10YR4/4	褐	極細砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 7%・明褐色粒～塊 3%・φ 10 ～ 30 mm礫 3%・炭塊 30%含む	旧表土下層		土壌化
2	10YR4/3	に ぶい黄褐	極細砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 5%・φ５～ 10 mm礫 2%・炭粒 2%含む	〃		〃
3	10YR5/6	黄褐	シルト	あり	あり	黄褐色粒～塊 50%・白色粘土塊 15%・炭粒～塊 5%含む	１面整地土	人為	
4	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	かなり強い	あり	黄褐色塊 15%・炭塊 5%含む	〃	〃	
5	10YR4/4	褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色粒 10%・黄褐色粒 2%・炭粒 2%含む	２面整地土	〃	
6	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊 15%・砂岩塊 5%・黄褐色塊 3%・φ ～ 5 mm礫 3%・炭粒～塊 10%含む	〃	〃	
7	10YR3/4	暗褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 30%・砂岩塊 3%・炭粒 5%含む	３・４面整地土	〃	３・４面の遺構面
8	10YR3/4	暗褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 15%・砂岩塊 3%・φ 30 mm礫 5%・炭粒 5%含む	〃	〃	
9	10YR4/4	褐	極細砂	あり	あり	黄褐色塊 10%・砂岩塊 7%・拳～人頭大安山岩 40%含む	縄地山層	自然	
10	10YR3/6	黄褐色	極細砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 15%・白色粒 3%含む	黄色地山層	〃	
6D1 トレンチ									
1	10YR3/4	暗褐	極細砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 5%・明褐色粒 2%・炭粒 2%含む	耕作土		根が多い
2	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒～塊 10%・明褐色粒～塊 3%・φ５～ 10 mm礫 2%・炭粒～塊 5%・地山塊 3%含む	〃		
3	10YR5/6	黄褐	極細砂	あり	強い	褐色塊 20%・明褐色粒～塊 5%・黄灰色塊 2%含む	遺構面、地山	自然	
6D2 トレンチ									
1	10YR4/4	褐	極細砂	あり	弱い	黄褐色塊 7%・明褐色粒 2%・φ～５mm礫 3%・炭粒 2%・焼土粒 1%含む	表土		
2	10YR4/3	に ぶい黄褐	極細砂	あり	あり	明褐色粒 10%・φ５～ 10 mm礫 5%・炭粒 3%・焼土粒 1%含む	表土２層目		
3	10YR4/4	褐	シルト	かなり強い	弱い	黄褐色塊 15%・炭粒～塊 7%・焼土粒 2%含む	表土３層目		
4	10YR3/3	暗褐	シルト＋極細砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 10%・炭粒 1%含む	石列 31 構築時の盛土	人為	
5	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒～塊 3%・砂岩粒～塊 3%・炭粒～塊 2%含む	〃	〃	砂岩塊は下部に集中
6	10YR3/3	暗褐	シルト＋極細砂	強い	あり	黄褐色粒 7%・砂岩粒 1%・炭粒 5%含む	第６段階の整地土	〃	第６段階の遺構面最上層
7	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色塊 7%・砂岩塊 3%・φ～５mm礫 3%・φ 10 ～ 30 mm礫 1%・炭粒 3%・焼土粒 1%含む	〃	〃	
8	10YR4/4	褐	極細砂	あり	強い	黄褐色塊 7%・黄白色塊 5%・炭粒～塊 10%・焼土粒～塊 3%含む	〃	〃	
9	10YR3/4	暗褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色塊 3%・黄褐色粒～塊 5%・φ～５mm礫 2%・炭粒～塊 5%・焼土粒 1%含む	〃	〃	
10	10YR4/3	に ぶい黄褐	シルト	かなり強い	弱い	黄褐色塊 3%・砂岩塊 3%・黄白色塊 2%・炭粒～塊 3%含む	〃	〃	
11	10YR3/3	暗褐	極細砂	かなり強い	弱い	黄褐色粒～塊 2%・灰白色塊 2%・炭粒～塊 7%・焼土粒 5%含む	第５段階の整地土	〃	
12	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	あり	あり	黄褐色塊 30%・炭粒 2%・焼土粒 2%含む	〃	〃	
13	10YR3/3	暗褐	極細砂	あり	強い	黄褐色粒～塊 10%・白色粒～塊 3%・焼土粒～塊 2%含む	〃	〃	

No.	土色		土質	しまり	粘性	含有物	性格	堆積	備考
14	10YR4/4	褐	シルト	強い	弱い	黄褐色粒～塊15%・白色粒～塊10%・褐色塊5%・炭粒1%・焼土粒1%含む	〃	〃	
15	10YR4/4	褐	シルト＋礫	かなり強い	弱い	黄褐色塊3%・砂岩塊3%・φ5～30mm礫15%・炭粒3%含む	第5段階の整地土	人為	
16	10YR4/4	褐	シルト	かなり強い	弱い	黄褐色塊10%・黒色粒～塊20%・φ10～30mm礫2%・φ50～拳大安山岩1%・炭粒3%・焼土粒3%含む	〃	〃	
17	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	強い	弱い	黄褐色塊3%・砂岩塊2%・φ10～30mm礫2%・炭粒～塊3%・焼土粒1%含む	〃	〃	
18	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊7%・黄灰色塊5%・炭粒～塊5%・焼土粒1%含む	第4段階の整地土	〃	遺構面最上層
19	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色塊10%・砂岩塊3%・φ10～30mm礫10%・炭粒3%含む	〃	〃	
20	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	かなり強い	やや弱め	黄褐色塊10%・白色粒～塊10%含む	〃	〃	
21	10YR3/4	暗褐	シルト＋極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊7%・砂岩塊3%・焼土粒3%含む	〃	〃	
22	10YR4/4	褐	シルト＋極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊10%・砂岩粒～塊2%・白色粒～塊3%・焼土粒2%含む	〃	〃	
23	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細粒砂	やや弱め	やや弱め	黄褐色塊40%・砂岩塊10%・褐色粒～塊10%・炭粒1%含む	〃	〃	
24	10YR4/4	褐	シルト＋極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊15%・砂岩塊3%・褐色粒～塊20%・焼土粒～塊3%含む	〃	〃	
25	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細粒砂	強い	あり	黄褐色塊30%・砂岩塊7%・褐色粒～塊5%含む	〃	〃	
26	10YR4/4	褐	極細粒砂	弱い	強い	黄褐色塊50%・砂岩塊5%・炭粒～塊7%・焼土粒1%含む	〃	〃	
27	10YR3/3	暗褐	シルト	あり	あり	黄褐色粒～塊20%・砂岩塊2%・黒色粒～塊3%・焼土粒3%含む	〃	〃	
28	2Y4/4	オリーブ褐	シルト＋極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊30%・砂岩塊2%・炭粒2%含む	〃	〃	
29	2Y4/3	オリーブ褐	シルト＋極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊40%・砂岩塊5%・灰白色塊7%・褐色塊3%含む	〃	〃	
30	10YR3/3	暗褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊15%・明褐色粒～塊10%・炭粒～塊3%・焼土粒2%含む	〃	〃	石列29前面から石列28直下まで及ぶ
31	10YR3/4	暗褐	細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊20%・砂岩粒～塊5%・φ5～10mm礫7%・φ50mm安山岩2%・炭粒～塊2%含む	第3段階の整地土	〃	
32	10YR3/4	暗褐	細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊7%・黄灰色粒～塊10%・白色粒～塊5%・φ30mm礫1%含む	〃	〃	
33	10YR4/3	にぶい黄褐	細粒砂＋中粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊10%・黄灰色粒～塊20%・白色粒5%・φ～5mm礫3%・φ30mm礫1%・炭粒2%・焼土粒1%含む	〃	〃	
34	10YR4/4	褐	細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・砂岩粒～塊5%・黄灰色粒～塊30%・φ10mm礫2%含む	〃	〃	
35	10YR4/3	にぶい黄褐	細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊10%・砂岩粒～塊5%・黄灰色粒～塊15%・φ5～10mm礫3%・φ30mm礫2%含む	〃	〃	
36	10YR4/4	褐	細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊5%・砂岩粒～塊7%・黄灰色粒～塊10%・φ10mm礫3%・炭粒～塊2%含む	〃	〃	
37	10YR4/4	褐	極細粒砂＋細粒砂	かなり強い	やや弱め	黄褐色粒～塊5%・砂岩粒～塊2%・黄灰色粒～塊7%・炭粒2%含む	〃	〃	
38	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊5%・砂岩塊3%・黄褐色粒～塊10%・φ10mm礫3%・炭粒1%含む	〃	〃	
39	10YR4/4	褐	極細粒砂＋細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊10%・砂岩粒～塊2%・黄褐色粒～塊10%・φ10～20mm礫3%含む	〃	〃	
40	10YR3/3	暗褐	極細粒砂＋細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・砂岩粒～塊7%・白色粒3%・φ～5mm礫3%・φ10～30mm礫2%含む	〃	〃	
41	10YR4/4	褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色塊10%・砂岩塊3%・灰白色塊3%・炭粒3%含む	〃	〃	石列30～石列28直下まで及ぶ
42	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒7%・砂岩塊5%・灰白色塊5%・φ5～10mm礫2%・焼土粒2%含む	〃	〃	
43	10YR4/4	褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊20%・砂岩粒5%・明褐色粒5%・白色粒2%・炭粒2%含む	〃	〃	
44	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	かなり強い	やや弱め	黄褐色塊3%・白色粒2%・焼土粒2%含む	〃	〃	
45	10YR4/6	褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色塊3%・黄褐色粒～塊3%・φ5～10mm礫2%・炭粒～塊2%・焼土粒2%含む	第2段階の整地土	〃	遺構面最上層
46	10YR4/6	褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊20%・黄褐色粒～塊30%・φ5～15mm礫5%含む	〃	〃	
47	10YR4/6	褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊30%・砂岩粒～塊3%・φ～5mm礫7%・φ30mm礫2%・炭粒～塊2%含む	〃	〃	
48	10YR4/4	褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊10%・砂岩粒～塊3%・φ～5mm礫5%・炭粒～塊7%含む	第1段階の整地土	〃	
49	10YR5/6	黄褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊15%・砂岩粒～塊2%・φ10mm礫3%・φ50mm礫2%・炭粒3%含む	〃	〃	
50	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色塊5%・砂岩粒～塊3%・褐色粒～塊7%・φ10mm礫3%含む	〃	〃	
51	10YR4/3	褐	シルト	強い	あり	黄褐色塊2%・明褐色粒2%・炭粒2%含む	〃	〃	
52	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・砂岩粒～塊3%・明褐色粒2%・φ5mm礫1%含む	〃	〃	
53	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	あり	明褐色粒5%・黄灰色塊15%・φ5mm礫1%・炭粒～塊3%含む	〃	〃	
54	10YR5/2	灰黄褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・砂岩粒～塊3%・φ10mm礫2%・炭粒～塊10%・焼土粒2%含む	〃	〃	
55	10YR4/4	褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒2%・灰白色粒～塊15%・φ5～10mm礫2%・炭粒1%含む	〃	〃	
56	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	やや弱め	あり	黄褐色粒～塊3%・砂岩粒～塊3%・黄灰色粒～塊5%・φ10mm礫1%・炭粒～塊3%含む	〃	〃	
57	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊7%・φ10～30mm礫5%・炭粒～塊3%含む	〃	〃	
58	10YR3/4	暗褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・砂岩粒～塊5%・φ10mm礫3%含む	旧表土	自然	
59	10YR4/4	褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色粒10%・明褐色粒2%・灰白色粒～塊20%・φ5～10mm礫2%・炭粒1%含む	地山	〃	
60	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	かなり強い	強い	黄褐色塊5%・褐色粒～塊10%・灰色粒～塊10%含む	〃	〃	
61	10YR3/3	暗褐	シルト＋極細粒砂	強い	かなり強い	黄褐色塊7%・灰色粒～塊40%・炭塊2%含む	〃	〃	

No.	土色		土質	しまり	粘性	含有物	性格	堆積	備考
62	10YR2/2	黒褐	シルト＋粘土	強い	かなり強い	黄褐色塊3%・砂岩塊2%・明褐色粒～塊3%含む	〃	〃	
63	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細砂	あり	あり	黄褐色粒～塊7%・砂岩塊3%・炭粒～塊3%含む	地山	自然	
64	10YR5/1	褐灰	粘土＋極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色塊7%含む	〃	〃	
65	2.5Y4/6	オリーブ褐	粘土＋細粒砂	強い	あり	明褐色塊3%・灰白色塊3%含む	〃	〃	

第４表　遺構土層一覧

遺構No.	No.	土色		土質	しまり	粘性	含有物	備考
6A1 トレンチ								
溝 1655	1	2.5Y5/2	暗灰黄	粘土	強い	強い	黄褐色塊 10%・黄色粒～塊 5%・炭粒 2%含む	壁面土層第 17 層と酷似
P1656	1	10YR6/2	灰黄褐	シルト＋粘土	強い	あり	黄褐色塊 7%・黄色土塊 3%・白色粘土 1%・炭粒 2%含む	
P1657	1	2.5Y4/6	オリーブ褐	シルト＋粘土	強い	あり	黄褐色粒～塊 10%・炭粒～塊 3%・焼土粒 1%含む	
P1658	1	10YR5/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊 5%・φ 5 ～ 10 mm礫 2%・炭粒 2%含む	
P1659	1	10YR4/2	灰黄褐	シルト＋粘土	強い	強い	黄褐色粒～塊 3%・φ 5 mm礫 1%・炭粒 2%含む	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 2%・炭粒 2%含む	
	3	10YR4/2	灰黄褐	シルト＋粘土	強い	強い	黄褐色粒～塊 2%・炭粒 1%含む	
溝 1672	1	10YR6/2	灰黄褐	シルト＋粘土	かなり強い	あり	泥岩塊 10%・黄色粒～塊 5%・炭粒 3%・焼土粒 1%含む	
杭 1 覆土	1	2.5Y4/2	暗灰黄	粘土	強い	強い	黄褐色粒～塊 7%・炭粒 3%含む	杭が腐食した粘土層
6A2 トレンチ								
P1660	1	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	弱い	強い	灰色塊 15%・橙褐色塊 5%・炭粒 1%含む	柱痕
	2	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	弱い	強い	灰色塊 15%・橙褐色塊 1%・炭粒 1%含む	〃
	3	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	灰色塊 15%・橙褐色塊 1%・暗褐色塊 5%・炭粒 1%含む	
	4	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	灰色塊 15%・暗褐色塊 1%・炭粒 1%含む	
P1661	1	10YR2/3	黒褐	シルト	弱い	強い	黄褐色粒 1%・φ 5 mm砂岩礫 1%・炭粒 1%含む	柱痕
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	弱い	強い	φ 5 mm砂岩礫 1%・炭粒 1%含む	〃
	3	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 15 mm砂岩礫 1%・炭粒 1%含む	
	4	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 5 mm砂岩礫 1%・炭粒 1%含む	
P1662	1	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	あり	黄褐色粒 10%・暗褐色粒 10%・炭粒 1%含む	
P1663	1	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	あり	砂岩粒 15%・暗褐色塊 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	あり	砂岩粒 5%・暗褐色塊 1%・炭粒 1%含む	
P1664	1	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	あり	砂岩粒 20%・暗褐色塊 1%・φ 2 mm礫 5%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	あり	砂岩粒 20%・炭粒 1%含む	
P1665	1	10YR3/3	暗褐	シルト	弱い	強い	黄褐色粒 5%・暗褐色塊 5%・φ 3 mm砂岩礫 1%含む	柱痕
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・暗褐色塊 30%・φ 10 mm砂岩礫 1%・炭粒 1%含む	
P1666	1	10YR5/6	黄褐	シルト	弱い	強い	褐色粒～塊 30%・炭粒 1%含む	柱痕
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	強い	黄褐色粒 5%・灰色塊 5%・φ 5 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	
P1667	1	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	強い	黄褐色粒 10%・φ 7 mm砂岩塊 10%・φ 30 mm礫 1%・炭塊 5%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
P1668	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒～塊 25%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 10 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	
P1669	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 3 mm砂岩塊 5%・φ 30 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1670	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	あり	φ 5 mm砂岩塊 15%・φ 10 ～ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1671	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒 15%・暗褐色粒 5%・炭粒 1%含む	
P1673	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒 5%・砂岩粒 5%・炭粒 1%含む	
P1674	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 5 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	
P1678	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒 5%・砂岩粒 10%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒 1%・砂岩粒 1%・炭粒 1%含む	
P1679	1	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 40 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR2/3	黒褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 1%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	3	10YR2/3	黒褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	
土 1680	1	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 40 mm礫 3%・炭粒 1%含む	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・暗褐色粒 30%・φ 5 mm砂岩塊 3%・φ 30 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1681	1	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 30%・暗褐色粒 40%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	柱痕
	2	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 40%・暗褐色粒 5%・炭粒 1%含む	〃
	3	10YR5/6	黄褐	シルト	強い	強い	褐色粒 30%・φ 5 mm砂岩塊 5%含む	
	4	10YR5/6	黄褐	シルト	やや強め	強い	褐色粒 5%・灰白色塊 15%含む	
	5	10YR5/6	黄褐	シルト	やや強め	強い	褐色粒 1%・灰白色塊 15%含む	
P1684	1	10YR4/4	褐	シルト	弱い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 1%・φ 50 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1686	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒 5%・φ 10 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	
P1687	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 15%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1688	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・暗褐色粒 10%・φ 20 ～ 50 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1689	1	10YR5/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・灰色塊 15%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	1	10YR5/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・灰色粒 15%含む	
P1690	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
	3	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・灰色塊 1%・φ 5 mm砂岩塊 10%・φ 10 mm礫 1%含む	
P1691	1	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 1%・φ 50 mm礫 5%・炭粒 1%含む	柱痕
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・炭粒 1%含む	〃
	3	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 3 mm砂岩塊 5%・炭粒 5%含む	
	4	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 3%含む	

遺構No.	No.	土色		土質	しまり	粘性	含有物	備考
±1692	1	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 10%・砂岩粒 3%・φ 30～50 mm礫 5%・炭粒～塊 5%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色塊 15%・砂岩粒 7%・白色粒 5%・φ 30 mm礫 3%・炭粒～塊 5%含む	
	3	10YR3/2	黒褐	極細粒砂＋粘土	あり	強い	黄褐色粒～塊 5%・砂岩粒 3%・φ 30 mm礫 2%・炭粒～塊 3%含む	
	4	10YR4/2	灰黄褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色塊 5%・黄色塊 5%・炭粒 2%含む	
±1693	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 10 mm砂岩塊 10%・φ 60 mm礫 1%・炭粒 1%・焼土粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 40 mm礫 1%・炭粒 3%・焼土粒 1%含む	
	3	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 20 mm砂岩塊 5%・φ 70 mm安山岩 1%・炭粒～塊 5%・焼土粒 1%含む	
	4	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 20 mm砂岩塊 10%・φ 70 mm輝安山岩 2%・炭粒～塊 3%・焼土粒 1%含む	
P1694	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 5 mm砂岩塊 1%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1695	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・砂岩粒 5%・φ 10 mm礫 1%・炭塊 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	砂岩粒 5%・φ 5 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1697	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 15%・赤褐色粒 1%・φ 3 mm砂岩塊 5%・φ 10 mm礫 1%・炭塊 1%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 3 mm砂岩塊 5%・φ 10 mm礫 1%・炭塊 1%含む	
P1698	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒～塊 10%・φ 3 mm砂岩塊 5%・黄色塊 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1699	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 3 mm砂岩塊 5%・φ 20 mm礫 1%・炭塊 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 3 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
P1700	1	10YR4/6	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 10 mm砂岩塊 10%・φ 40 mm礫 10%・炭粒 1%含む	
P1701	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・暗褐色塊 5%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・炭粒 1%含む	柱痕
	3	10YR4/6	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
P1702	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄色粒 10%・φ 10 mm砂岩塊 5%・φ 30 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%含む	
	3	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・炭粒 1%含む	
P1703	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 15%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	
±1704	1	10YR4/4	褐	シルト	あり	強い	黄褐色粒 15%・黒褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 10%・φ 10～15 mm礫 5%・炭粒 1%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	あり	強い	黄褐色粒 10%・黒褐色粒 1%・φ 5 mm砂岩塊 1%・φ 20～40 mm礫 1%・炭塊 1%含む	
P1705	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 40 mm礫 30%含む	
	2	10YR4/6	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 3 mm礫 5%・炭粒 1%含む	
	3	10YR4/6	褐	シルト	強い	強い	茶褐色粒 30%・φ 3 mm礫 5%含む	
P1706	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 30～40 mm礫 30%・炭粒 1%含む	
	3	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・炭粒 1%含む	
P1707	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 3 mm砂岩塊 10%・炭塊 3%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 10 mm砂岩塊 5%・炭塊 1%含む	
±1710	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 5～40 mm礫 5%・炭粒 1%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 5%・60 m安山岩 1%・炭粒 1%含む	
	3	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒～塊 35%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 80 m安山岩 1%含む	
P1711	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1712	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 30%・φ 5 mm砂岩塊 1%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1713	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 10 mm礫 15%含む	鉄分を多く含む
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 10 mm砂岩塊 10%・炭粒 1%含む	柱痕
	3	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	φ 2 mm礫 1%・炭粒 1%含む	〃
	4	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
	5	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 30%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む	
P1715	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 15%・φ 10 mm砂岩塊 30%・φ 10～40 mm礫 40%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 5 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む	柱痕
	3	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 15%・炭粒 1%含む	〃
	4	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 30%・φ 10 mm砂岩塊 5%・φ 5 mm礫 1%含む	
P1717	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 15%・φ 5 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
	2	10YR2/3	黒褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 20 mm礫 1%含む	
P1718	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 30%・φ 10 mm礫 15%・炭粒 1%含む	
	2	10YR4/6	褐	細粒砂	強い	強い	灰色砂岩塊 10%含む	
±1719	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒～塊 7%・黒色塊 1%・φ 50 m安山岩 1%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	砂岩粒 15%・黒色塊 10%・炭粒 1%含む	
	3	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 50%・暗褐色塊 5%・φ 10～40 mm礫 10%・炭粒 1%含む	
±1720	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ砂岩塊 5%・φ 30～80 m安山岩 10%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 10～20 mm砂岩粒 30%含む	
	3	4YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 10%・φ 10 mm礫 30%含む	
±1721	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 30 mm礫 5%・炭粒 1%含む	
P1722	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 50 mm礫 5%・炭粒 1%含む	
P1723	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 50 mm礫 5%・炭粒 1%含む	鉄分を多く含む
P1724	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 5%・φ 30 mm礫 10%・炭粒 1%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 20 mm礫 1%・炭粒 1%含み	
P1725	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	砂岩粒 1%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む	
P1726	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・砂岩粒 1%・炭塊 1%含む	
	2	10YR2/3	黒褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 5 mm砂岩塊 1%含む	
P1727	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 3 mm礫 1%・炭塊 1%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 20 mm礫 1%含む	
	3	10YR2/3	黒褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 1%・φ 5 mm礫 1%含む	

遺構No.	No.	土色		土質	しまり	粘性	含有物		備考
P1728	1	10YR4/4	褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 5%・φ 7 mm砂岩塊 1%・炭粒 1%含む		
	2	10YR2/3	黒褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 1%・φ 30 mm礫 1%含む		
P1729	1	10YR3/3	暗褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 10%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%		
P1730	1	10YR3/3	暗褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 10%・φ 7 mm砂岩塊 5%含む		
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 1%・φ 15 mm礫 1%含む		
P1731	1	10YR4/4	褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 10%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 1%含む		
P1732	1	10YR4/4	褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 1%・φ 30 mm砂岩塊 10%・φ 5 mm礫 1%含む		
	2	10YR4/4	褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 5%・φ 50 mm礫 10%含む		
	3	10YR3/4	暗褐	シルト	弱い	弱い	黄褐色粒 30%・φ 5 mm砂岩塊 5%・炭粒 1%含む		
6D1 トレンチ									
P1601	1	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	あり	あり	φ 3 mm砂岩塊 2%・明褐色粒～塊 2%・炭粒～塊 10%含む	柱痕。内耳鍋出土	
	2	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	かなり強い	弱い	φ ～ 5 mm礫 2%・明褐色土塊 5%・炭粒 1%含む		
	3	10YR4/6	褐	極細粒砂	強い	あり	明褐色粒～塊 5%含む		
P1602	1	10YR4/4	褐	シルト	弱い	かなり強い	明褐色粒～塊 2%・炭粒 2%含む		
	2	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	弱い	砂岩塊 5%・明褐色粒～塊 3%・炭粒～塊 10%・焼土粒 3%含む	柱痕上層	
	3	10YR4/4	褐	極細粒砂	強い	弱い	砂岩塊 1%・明褐色粒 2%・炭粒～塊 3%含む	柱痕下層	
	4	10YR4/4	褐	極細粒砂	あり	あり	明褐色粒 5%・炭粒 2%含む		
6D2 トレンチ									
溝 1603	1	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 7%・焼土粒～塊 5%含む		
	2	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 3%・φ 10 mm礫 3%・炭粒 1%含む		
	3	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 10%・焼土粒 2%含む		
	4	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 5%・黄灰色粒～塊 3%含む		
	5	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊 5%・黄灰色粒～塊 5%含む		
P1604	1	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒 3%・砂岩粒 2%・φ 10 mm礫 2%含む		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊 3%・φ 5 mm礫 2%含む		
溝 1605	1	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	かなり強い	強い	炭粒～塊 2%・焼土粒～塊 5%含む		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 5%・炭粒 2%・焼土粒～塊 3%含む		
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 7%・炭粒～塊 5%・焼土粒～塊 2%含む		
	4	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 5%・炭粒 3%含む		
	5	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 30%・炭粒 2%・焼土粒 3%含む		
P1606	1	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 5%・砂岩塊 2%・炭粒～塊 3%含む		
P1607	1	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 5%・黄灰色粒～塊 3%・φ 20 mm礫 1%・炭粒～塊 2%含む		
	2	10YR4/4	褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 5%・黄灰色粒～塊 3%・φ 20 mm礫 1%・炭粒～塊 2%含む		
	3	10YR4/4	褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 7%・φ 10 ～ 20 mm礫 2%・炭粒 2%含む		
P1608	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 7%・φ 5 ～ 10 mm礫 2%・炭粒～塊 5%・焼土粒 2%含む	柱痕	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊 5%含む		
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒～塊 40%・砂岩粒 5%・炭粒～塊 5%含む		
	4	10YR3/4	暗褐	シルト＋極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊 5%・砂岩粒～塊 2%・黄灰色粒 10%・炭粒 3%含む		
	5	10YR3/4	暗褐	シルト＋極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊 10%・炭粒 3%含む		
P1609	1	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 5%・砂岩粒～塊 2%・炭粒～塊 5%含む		
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	細粒砂	あり	強い	黄褐色粒～塊 10%・砂岩 1%・φ 10 mm礫 3%・炭粒 3%含む		
	3	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒 7%・砂岩塊 1%・炭粒 7%含む	柱痕	
	4	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 5%・炭粒～塊 3%含む	〃	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	強い	黄褐色粒 3%・炭粒 3%・焼土粒 2%含む		
	6	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 30%・砂岩粒 3%・炭粒 2%含む		
	7	10YR4/4	褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒～塊 2%・黄灰色粒～塊 20%・炭粒 2%含む		
	8	10YR4/4	褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒～塊 7%・炭粒～塊 3%含む		
P1610	1	10YR4/4	褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 2%・砂岩粒～塊 5%・φ 10 mm礫 1%含む		
P1611	1	10YR4/4	褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒～塊 5%・φ 10 mm礫 1%・焼土粒～塊 2%含む		
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	砂岩粒 2%含む		
	3	10YR4/4	褐	シルト＋極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒 2%含む		
P1612	1	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 5%・炭粒 2%含む	柱痕	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 3%・砂岩粒 2%・炭粒 2%含む		
	3	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒 2%・砂岩粒～塊 3%・炭粒～塊 2%含む		
P1613	1	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊 7%・φ 5 ～ 10 mm礫 2%・炭粒～塊 5%・焼土粒 3%含む		
	2	10YR4/4	褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒 3%・炭粒 3%含む		
	3	10YR3/3	暗褐	シルト＋極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒 2%・砂岩粒 1%・炭粒 2%含む		
溝 1614	1	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 2%・炭粒 1%含む		
	2	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	強い	強い	黄褐色粒 3%・炭粒 2%含む		
P1615	1	10YR4/4	褐	シルト＋極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊 10%・φ 5 ～ 10 mm礫 1%・炭粒 2%含む		
溝 1616	1	10YR3/4	暗褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒 5%・砂岩塊 1%・φ 10 mm礫 1%・炭粒 3%含む		
P1617	1	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒 3%・白色粒～塊 2%・炭粒 1%含む		
P1618	1	10YR4/3	にぶい黄褐	極細粒砂	強い	あり	黄褐色粒 7%・砂岩 3%・炭粒～塊 5%含む		
	2	10YR4/4	褐	細粒砂	強い	あり	黄褐色粒 5%・黄灰色粒～塊 7%・炭粒 3%含む		
	3	10YR4/2	灰黄褐	シルト	あり	強い	黄褐色粒 2%・黄灰色粒～塊 5%・炭粒 2%含む	柱痕	
	4	10YR4/4	褐	シルト	強い	強い	黄褐色粒 7%・黄灰色粒 3%・炭粒 1%含む		
P1619	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	かなり強い	強い	黄褐色粒 10%・炭粒～塊 5%含む		
	2	10YR3/3	暗褐	極細粒砂	あり	あり	黄褐色粒 2%・炭粒～塊 5%含む	柱痕	
	3	10YR3/3	暗褐	シルト	あり	あり	黄褐色粒 2%・炭粒～塊 3%含む		
	4	10YR3/2	黒褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒 1%・炭粒 3%含む	柱痕	
溝 1620	1	10YR4/4	褐	極細粒砂	かなり強い	あり	黄褐色粒 3%・白色粒 1%・φ 10 ～ 15 mm礫 2%・炭粒 2%含む		

遺構No	No	土色		土質	しまり	粘性	含有物	備考
炉1621	1	10YR3/4	暗褐	シルト	かなり強い	あり	配岩2%・黄灰色粒～塊10%・炭塊15%・焼土粒(10R3/6暗赤色、7.5YR4/6暗色)30%含む	焼土層
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	弱い	黄灰色塊10%・炭粒～塊3%含む	
	3	10YR4/4	褐	極細砂	弱い	あり	黄褐色塊5%・黄灰色粒～塊3%・炭粒～塊2%含む	
不明遺構1622	1	10YR2/3	黒褐	極細砂	強い	強い	砂利粒2%・褐色粒～塊20%・φ10 mm礫1%・炭粒～塊7%含む	中世の遺物含む。近現前の遺構か
	2	10YR3/3	暗褐	極細砂	あり	あり	砂利粒2%・灰白色粒～塊10%・炭塊2%含む	
P1624	1	10YR4/4	褐	極細砂	あり	あり	黄褐色塊2%・炭粒～塊3%・焼土粒1%含む	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	細粘砂	強い	あり	黄褐色塊2%・黄灰色粒～塊5%・炭粒1%含む	
	3	10YR4/4	褐	細粘砂	かなり強い	強い	黄褐色塊2%・黄灰色粒～塊5%・φ10 mm礫2%・炭粒2%含む	
P1625	1	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	あり	黄色粒～塊7%・炭粒～塊5%・焼土粒～塊3%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色塊5%・黄灰色塊5%・炭粒～塊3%含む	
P1627	1	10YR3/3	暗褐	極細砂	かなり強い	あり	黄褐色粒5%・黄灰色粒～塊3%・φ5 mm礫2%・炭粒～塊3%含む	
P1628	1	10YR3/4	暗褐	極細砂	強い	あり	黄褐色粒～塊2%・明褐色粒1%・黄灰色塊10%・炭粒1%含む	
P1629	1	10YR4/4	褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色塊7%・φ10～30 mm礫3%・炭粒1%含む	
	2	10TE4/4	褐	極細砂	強い	あり	黄褐色粒3%含む	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	極細砂	あり	あり	黄褐色塊7%・φ5 mm礫1%含む	
	4	10YR4/4	褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊3%・φ30 mm礫5%含む	
P1630	1	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	強い	黄色粒～塊10%・炭粒3%・焼土粒2%含む	
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄色粒～塊5%・炭粒2%・焼土粒2%含む	
P1631	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	かなり強い	強い	黄灰色粒～塊7%・焼土粒1%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	細粘砂	強い	強い	黄褐色塊3%・黄灰色塊2%・炭粒～塊2%含む	柱痕
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色粒3%・黄灰色塊1%・炭粒2%含む	
	4	10YR3/3	暗褐	極細砂	かなり強い	あり	黄褐色塊3%・炭粒2%・焼土粒1%含む	
P1632	1	10YR4/3	にぶい黄褐	極細砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・黄灰色塊2%・φ30 mm礫3%・炭粒～塊1%含む	
P1633	1	10YR3/4	暗褐	極細砂	強い	あり	黄褐色粒2%・黄灰色塊7%・炭粒～塊2%含む	
P1634	1	10YR4/2	灰黄褐	シルト	あり	強い	黄褐色粒～塊5%・黄灰色粒～塊3%・炭粒2%含む	
P1635	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒5%・φ～5 mm礫1%・炭粒1%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒3%・暗褐色粒10%・φ2 mm礫1%・炭粒1%含む	
P1636	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒5%・暗褐色粒10%・φ3 mm礫1%含む	
	1	10YR4/4	褐	極細砂	あり	あり	黄褐色塊2%・明褐色粒3%・炭粒～塊2%含む	
溝1637	2	10YR4/3	にぶい黄褐	極細砂	強い	あり	黄褐色塊2%・明褐色粒3%・黄灰色塊20%・炭粒3%含む	
	3	10YR4/4	褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色塊5%・砂岩塊3%・明褐色粒5%・φ10 mm礫3%・炭粒～塊3%含む	
P1638	1	10YR3/4	暗褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒5%・暗褐色粒10%・φ3 mm礫1%・炭粒1%含む	
P1639	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒15%・暗褐色粒10%・φ5 mm礫1%・炭粒1%含む	柱痕
	2	10YR4/6	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒30%・暗褐色粒5%・φ3 mm礫1%含む	
	3	10YR4/6	褐	シルト	強い	あり	黄褐色塊60%含む	
	4	10YR4/6	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒15%・φ2 mm礫1%含む	
P1640	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒1%・暗褐色粒1%・φ1 mm礫1%含む	
	2	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒30%・φ2 mm礫1%含む	
	3	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒1%・φ2 mm礫1%含む	
	4	10YR5/4	にぶい黄褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒15%・φ15～20 mm礫2%含む	
P1641	1	10YR3/4	暗褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色塊5%・黄色粒～塊10%・炭粒～塊10%含む	
	2	10YR3/2	黒褐	細砂	強い	あり	黄褐色塊7%・黄灰土塊5%・炭粒～塊20%・焼土粒～塊10%含む	
	3	10YR3/3	暗褐	極細砂	あり	強い	黄褐色塊2%・黄灰土粒～塊5%・炭粒2%含む	
	4	10YR3/3	暗褐	極細砂	強い	強い	黄褐色塊5%・黄灰色粒～塊5%・炭粒～塊3%含む	
P1642	1	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	強い	強い	黄褐色粒～塊10%・炭粒～塊3%・焼土粒～塊2%含む	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細砂	かなり強い	強い	黄褐色粒～塊5%・炭粒～塊3%含む	
	3	10YR4/4	褐	シルト	かなり強い	強い	黄灰色粒～塊5%・炭粒2%含む	
P1643	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色塊2%・明褐色粒3%・黄色粒～塊10%・炭粒2%含む	
P1644	1	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒～塊10%・明褐色塊30%含む	
P1645	1	10YR4/4	褐	シルト	弱い	あり	黄褐色粒1%・暗褐色粒15%・φ2 mm礫1%・炭粒1%含む	柱痕
	2	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒～塊10%・暗褐色粒1%・炭粒1%含む	
	3	10YR4/4	褐	シルト	強い	あり	黄褐色粒5%・φ2 mm礫1%含む	
P1646	1	10YR3/4	暗褐	極細砂	かなり強い	強い	炭粒2%・黄色粒～塊2%・褐色塊3%・黄灰色塊7%・炭粒～塊2%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	極細砂	かなり強い	あり	黄褐色塊7%・明褐色粒2%・黄色粒～塊3%・黄灰色塊5%・φ10 mm礫1%・炭粒～塊5%含む	
P1647	1	10YR4/4	褐	極細砂	かなり強い	強い	黄褐色塊3%・砂岩2%・明褐色粒3%・炭粒～塊2%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	極細砂	強い	あり	黄褐色塊3%・砂岩塊5%・φ5 mm礫2%・炭粒～塊3%・焼土粒2%含む	
P1648	1	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト	かなり強い	強い	黄褐色塊2%・明褐色粒2%・炭粒～塊含む	
P1649	1	10YR3/4	暗褐	極細砂	強い	あり	黄褐色塊7%・砂岩塊5%・明褐色粒5%・φ5～10 mm礫3%・炭粒～塊7%含む	
P1650	1	10YR3/3	暗褐	シルト	かなり強い	あり	黄褐色塊3%・砂岩塊3%・白色粒3%・φ10 mm礫2%・炭粒～塊2%含む	
	2	10YR3/4	暗褐	極細砂	強い	あり	黄褐色塊5%・砂岩塊2%・φ10 mm礫2%含む	
P1651	1	10YR4/3	にぶい黄褐	極細砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊5%・炭粒2%含む	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト＋極細砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊7%・φ5～10 mm礫2%含む	
	3	10YR4/4	褐	シルト＋極細砂	かなり強い	あり	黄褐色粒～塊10%・φ5～10 mm礫1%・炭粒2%含む	
P1652	1	10YR3/3	暗褐	極細砂	あり	強い	黄褐色粒3%・炭粒～塊2%含む	
	2	10YR3/3	暗褐	極細砂	強い	強い	黄褐色粒～塊5%含む	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐	極細砂	あり	あり	黄褐色粒～塊5%・炭粒～塊3%・焼土粒2%含む	
P1653	1	10YR3/4	暗褐	極細砂	あり	あり	黄褐色粒2%・炭粒～塊1%含む	
P1654	1	10YR4/2	灰黄褐	極細砂	あり	強い	黄褐色粒～塊5%・炭粒～塊3%・焼土粒2%含む	

第3節　遺　物

1　焼物（第5～6表、第22～23図）

(1) 概要

本調査では、6A2トレンチ、6D2トレンチを中心に奈良・平安時代から近世までの土器・陶磁器174点が出土した。その内訳は、奈良・平安時代37点、中世129点、近世8点である。本報告では、そのうち56点について図示したが、中世の焼物については破片すべてをトレンチ・層位毎ならびに器種毎に分類し、集計表に掲載した。なお、陶磁器については、調査指導委員の小野正敏・水澤幸一両氏の全般的な指導を受け、瀬戸・美濃製品については藤澤良祐氏に鑑定を依頼した。また、文中や集計表で用いた器種分類は、文末に記した文献に依った。

(2)　6A1トレンチ（1～2）

本トレンチから出土した中世遺物は僅か3点のみである。内訳は内耳鍋1点、常滑甕1点、天目茶碗1点で、このうち2点を図示した。1の天目茶碗は近世の溝から出土しており、後世の攪乱による混入品と考えられる。鉄釉が古瀬戸の茶褐色とは異なり漆黒で、胎土も極めて精良であり、口縁端部が尖ることから、中国産のものと考えられる。2は常滑甕の底部で、1面の土塁状盛土内で出土した。赤灰色の胎土で厚みを持ち、内面に工具によるナデが確認できる。自然釉等は見られない。

(3) 6A2トレンチ（3～23）

本トレンチでは、奈良・平安時代12点、中世48点、近世1点の総数61点の遺物が出土した。このうち3・4面から出土したものは奈良・平安時代2点、中世4点、1面以前から出土したものは奈良・平安時代1点、それ以外はすべて1面の遺物であった。中世遺物の内訳は在地系土師質土器44点(皿34点・内耳鍋10点)、瓦質土器風炉1点、無釉陶器2点（山茶碗1点・常滑甕1点）、古瀬戸1点であり、うち20点を図示している。また、このほか須恵器の杯（3）も1点実測した。

ア　3・4面（3～4）

いずれも整地土内からの出土である。3は須恵器杯Bの底部で、外面に自然釉が付着している。底部は回転ヘラ削り後に高台が貼付けられる。4は土師質皿の底部で、胎土が粗い1群に属するものである。口縁部は残存していないが、底面から明瞭に屈折して直線的に立ち上がることから、殿村5次報告に示したA類として分類されよう。

イ　1面（5～23）

5～13は土1692からの出土で、このうち8点が土師質皿であった。ほとんどが1群に属するもので、胎土が密な2群のものは僅か1点にとどまった（10)。5～7は底部から口縁部まで残存しており、いずれもA類の特徴を持つ。6は底部の厚みが顕著であり、口縁端部にかけて急激に薄くなっている。7は底部が薄く、内面の立ち上がり際に強いナデを施している。これにより見込み部分が島状に盛り上がっており、1次調査報告で示した内面処理におけるBタイプに分類することが出来よう。口縁部から胴部にかけて残存している8～11は、立ち上がりが全体的に内湾傾向であるため、B類と考えられる。12は口縁部のみの出土であるが、内外面にタールが付着しており、灯明皿であると考えられる。13は常滑甕の頸部から肩部にかけての部分で、外面に自然釉が厚く付着し、緑灰色をなす。胎土は密で、断面にはススと見られるものが付着していた。土1693から出土したものは14～19の10点で、このうち6点が土師質皿である。皿はすべて1群の胎土を有し、完形に近い状態で出土したものもあった。14は器形が内湾するB類の特徴を

持ち、15 ～ 17 は A 類に分類される。17 は内面のナデによって見込みに形成された島状の盛り上がりを、さらに指で 1 方向になでた痕跡がある。手法的には内面処理 A タイプに属するが、雑な仕上げである。18 は古瀬戸の卸皿口縁部であり、内面から口縁端部にかけて灰釉が施釉されている。古瀬戸後Ⅳ期古段階のものであろう。19 は瓦質土器の風炉で、胎土は暗橙色を呈している。今回出土したものは胴下部と思われ、外面に 2 種類の花菱紋と連子紋が押捺されている。花菱紋は表面の上部と下部に一定の間隔を持って押捺され、その間の中段に別の花菱紋が上下の紋と交互になるように配されている。20 ～ 23 は整地土中からの出土である。20 ～ 22 はいずれも B 類に属する土師質皿であるが、胎土を観察すると 20 は 1 群、21 は 2 群に属することがわかる。22 は非常に特徴的なあり方を示しており、内面は白色・精良な 3 群の胎土であるのに対し、外面には橙色で密な 2 群の胎土が貼り合わさっている。これは 5 次報告でも述べた通り、2 群の素地を土台として 3 群の皿を製作したための産物と受け取れる。一覧表では 3 群として分類した。23 は近世陶器の擂鉢で、内外面には鉄釉が施釉されている。

(4) 6D1 トレンチ（24）

本トレンチにおける遺物は極めて少なく、内耳鍋が 2 点出土したのみである。このうち耳部が残存していた 1 点を図示した（24）。口縁部はほぼ直立し、把手貼付け後にナデによって調整している。耳部であるため内面の調整は不明瞭であるが、口縁の器形からみて C － 1 類に属するものであろう。

(5) 6D2 トレンチ（25 ～ 56）

今回の調査において、遺物が最も多く出土したトレンチである。奈良・平安時代 25 点、中世 76 点、近世 7 点の総数 108 点が出土した。このうち図示したのは、32 点である。中世遺物の内訳は、在地系土師質土器 63 点（皿 33 点・内耳鍋 29 点・片口鉢 1 点）、古瀬戸・大窯 11 点、青磁 2 点であった。なお、遺構覆土や検出面から出土した遺物は、段階の特定が出来ないため 1 ～ 6 段階の遺物として区分した。

ア　地山面（25 ～ 27）

地山面で検出された不明遺構 1622 覆土中から出土した遺物である。25・26 はそれぞれ 1 群 A 類・1 群 B 類に属し、26 は内面端部にススが、口縁端部にはタールが付着していることから、灯明皿と考えられる。27 は古瀬戸の皿底部で、回転糸切り痕を残す。黄灰色の密な胎土からなり、内外面ともに露胎である。外面には墨書があるが、文字を特定することは出来なかった。

イ　第 1 ～ 6 段階（28 ～ 31）

本トレンチでは、掘込面の特定できる遺構はほとんどない。よってここでは、遺構から出土した遺物を 6 段階以前すなわち 1 ～ 6 段階として区分することとする。この段階に属する遺物は奈良・平安時代や近世を含めて 22 点で、このうち 4 点を図示した。28・29 は溝 1637 から出土した遺物である。28 は土師質の片口鉢で、橙褐色のやや粗い胎土からなり、片口部は口縁を指で外側につまみ出して形成している。在地系の土師質や須恵器片口鉢は、外来の片口鉢・摺鉢を補完する形で生産されていたもので、瀬戸産擂鉢が本格的にもたらされるに従い姿を消すようである。29 は土師質土器の内耳鍋で、口縁部はほぼ直立し、内面はナデによる凹線が 1 条見られた。内耳鍋分類の B 類に属するものである。30 は胎土精良の 3 群の土師質皿で、立ち上がりが内湾し、B 類に属する。31 は 1 群に属する皿で、立ち上がりには A 類の特徴が見られる。

ウ　第 1 段階（32 ～ 38）

第 1 段階の遺物は奈良・平安時代から近世まで、全 29 点出土している。32 は須恵器の杯 A、33・34 は 1 群 B 類に属する土師質皿である。35 の内耳鍋は、内面に目立った調整痕がみられず、内湾した後ほぼ直線的に立ち上がることから、C － 2 類に属するものと考えられる。36 は近世の瀬戸・美濃系擂鉢で、内外

面に暗茶褐色の鉄釉が施釉されている。内面はロクロナデの後に摺目を施す。37 は古瀬戸の卸皿である。内外面に淡赤褐色の錆釉を施した後、口縁端部に灰釉を施釉している。内面に卸目の一部が確認できた。後Ⅳ期古段階のものであろう。古瀬戸後Ⅲ期に属するものとしては、38 の平碗が挙げられる。口縁端部がやや外反しており、内外面には灰釉を施釉している。

エ　第 3 段階（39）

この段階からの遺物は少なく、奈良・平安時代の須恵器の壺が 1 点出土したのみである（39）。良好な胎土で、外面には自然釉が付着していた。

オ　第 4 段階（40 ～ 42）

奈良・平安時代が 2 点と中世遺物が 15 点出土し、このうち 3 点を図示した。40 は内耳鍋で、内面に凹線状のヨコナデが見られる B 類である。41 は古瀬戸天目茶碗の底部で、内面には茶褐色の鉄釉が施釉されている。底部は削り出し高台の脇に面を作り、後Ⅲ～Ⅳ期古段階のものと考えられる。42 の緑釉小皿は後Ⅳ期古段階に位置づけられるもので、口縁部に淡緑灰色の灰釉が施されている。

カ　第 5 段階（43 ～ 44）

奈良・平安時代が 1 点、中世が 3 点出土したうち、2 点を図化した。43 は内耳鍋の口縁部で、内湾して立ち上がった後直立する C － 2 類の特徴が見られるが、内面にはヨコナデによる浅い凹線が 2 条確認出来る。44 は稜皿の底部である。幅広の削り出し高台で内外面に鉄釉が施釉され、内面の見込みにはトチン痕が、底部には重ね焼き痕が見られる。大窯の 2 ～ 3 段階に属するものと考えられる。

キ　第 6 段階（45 ～ 48）

奈良・平安時代 2 点、中世 7 点が出土している。図示したのはこのうち 4 点である。45 は緩やかに内湾しながら立ち上がる 1 群 B 類の土師質皿である。46 は大窯 2 ～ 3 段階に属する丸皿で、内外面にガラス質の灰釉が施釉されている。底部には重ね焼き痕も見られた。47 は青磁碗であり、緑灰色の青磁釉が内外面に施される。48 は陶器皿の底部であり、大窯の 1 ～ 2 段階のものである。貼付高台であり、内外面には灰釉が施釉されていた。底部のみのため全形は不明だが、丸皿か端反皿と考えられる。

ク　近世以降（49 ～ 55）

試掘トレンチ a ～ j を含め、表土から出土した遺物を一括した。奈良・平安時代 4 点、中世 8 点、近世 4 点の計 16 点の遺物のうち、7 点を図示した。49 は土師質皿である。2 群 A 類に属するものと考えられる。50 は内耳鍋の口縁部で、内面にはヨコナデによる凹線が見られる。B 類に属するものであろう。51 は古瀬戸後Ⅳ期古段階の天目茶碗である。内面には鉄釉が施釉され、口径は推定値で 9.8 ㎝と考えられる。52 ～ 55 はいずれも近世の瀬戸・美濃系陶器である。52 は灰釉が施釉された壺類で、口縁が外反する。53 ～ 55 はともに碗で、53 は内外面に鉄釉が施釉され口縁が外反するが、54 は口縁が直立し、灰釉を施されている。55 は試掘トレンチ g から出土したものである。口縁は直立し、灰釉が施されている。

ケ　その他（56）

排土から出土した遺物を、その他として区分した。中世遺物が 2 点と近世遺物が 1 点出土しており、近世の陶器碗のみを図示した（56）。内面に灰釉が施釉されており、胴部は内湾するが口縁はほぼ直立する。

（6）小結

最後に、本項で得られた結果をここで簡潔にまとめておきたい。

ア　6A1・6A2 トレンチ

6A 区出土の焼物全体における在地生産品は 88.2％に及ぶ。全体の 8 割を占める割合であり、うち在地産土師質皿の割合は 67％である。対して東海系をはじめとする国内産の焼物は 9.8％、貿易陶磁は 2.0％となっ

ている。1～5次調査Aゾーンの出土遺物の比率を見ると、在地産の焼物が85%、国内産の焼物が12%、貿易陶磁が3%となっており、本調査の出土遺物もおおむねこれと似た傾向であることがわかる。また、本遺跡では寺院や居館に深く関わる茶道具が多く出土しているが、本調査においても瓦質土器風炉や天目茶碗が得られた。こうした茶道具はAゾーンの平場範囲全域に分布しており、焼物全体に占める割合は高くはないものの、その重要性が窺える。

本稿では5次調査に倣い、土師質皿を胎土別に1～3群に分類したが、今回出土した土師質皿の中で2群の赤土と3群の白土の2層構造となるものが1点見られた（22）。こうした遺物はこれまでに2点得られており、また井川城址でも1点確認されている。これは同じロクロの上で3群と2群の2種類の素地を据えて皿を製作していたことを示しているが、このことは2種類の皿の生産地が別々だったのではなく、同一工房・工人において生産されていたことを示している。

イ　6D1・6D2トレンチ

Dゾーンの調査は、今回が初めての実施であった。出土遺物も本調査で得られたもののみで、焼物の様相を語るには不十分といえるが、今回出土した遺物の割合をみると、在地産土器は83.3%、国内産土器は14.1%、貿易陶磁は2.6%となり、ここでもAゾーンと同様の結果を得ることとなった。ただし、無釉陶器は本調査区では得られなかった。国内産土器のうち東海系陶器は第1～4段階に古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ古段階（15世紀前葉～中葉）があり、第5～6段階に大窯1～3段階（15世紀末～16世紀後葉）のものが見られる。これはAゾーンの4～1面の遺物とほぼ同時期であり、AゾーンとDゾーンの遺構群は併行関係にあることを示している。また、本調査区では内耳鍋も多数出土しているが、それらは総じてB類かC類に分類されるものである。内耳鍋B類は古瀬戸後Ⅳ新～大窯1段階すなわち15世紀後半～16世紀初頭にあたり、C類は16世紀初頭～中頃にあたる大窯1～2段階に属する。ここにもAゾーンの年代観との一致をみることができ、年代推定の参考になると考える。

なお、Dゾーンの特色としてあげられるのは、Aゾーンと比較して内耳鍋の割合が大きいことである。1～5次調査Aゾーンにおける土師質皿と内耳鍋の全体に占める割合は、土師質皿が65.7%であるのに対し、内耳鍋は17.4%である。6A区においても土師質皿が66.7%、内耳鍋が21.6%で、いずれも土師質皿が内耳鍋を約3倍上回る結果となっている。しかし6D区の比率を見てみると、土師質皿は全体の42.3%、内耳鍋は40.0%と、ほぼ同率であることが分かる。この結果がAゾーン・Dゾーン両平場の性格の違いを表すものであるかは今後の調査成果も含めて熟考する必要があるが、これらも殿村遺跡全体の性格を捉えるうえで重要な材料であるといえよう。

（7）金属製品（57～58）

本調査では、2点の銭が出土している。57は6D2トレンチ南拡張区の地山直上で出土した光天元宝である。前弱時代の銭で、初鋳年は918年である。58は北宋銭の熙寧元宝で、初鋳年は1068年である。

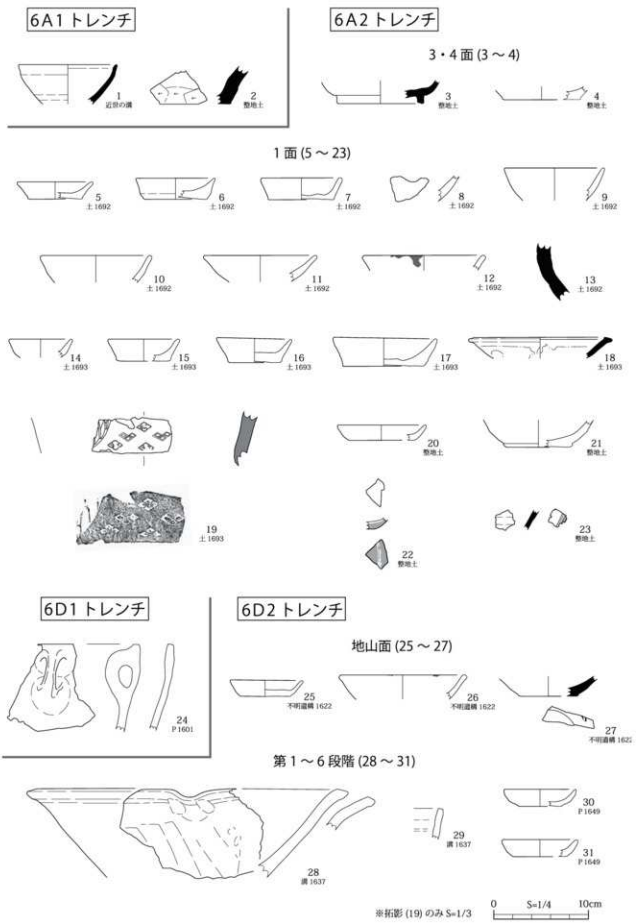
参考文献

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2
小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』2
森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2
小野正敏　1985　「出土陶磁よりみた一五、一六世紀における画期の素描」『MUSEUM』416
小平和夫　1990　「古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4総論編』
市川隆之　1999　「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書」9
藤澤良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
藤澤良祐　2008　『中世瀬戸窯の研究』高志書院
松本市教育委員会　2011　『殿村遺跡第1次発掘調査概報』
松本市教育委員会　2015　『殿村遺跡第5次発掘調査報告書』

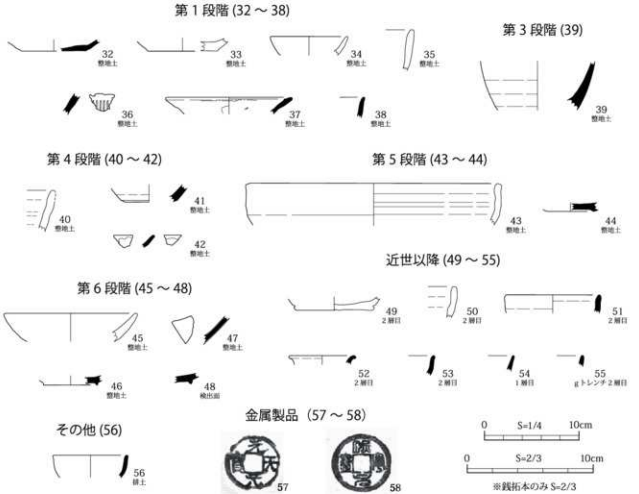
第5表　焼物一覧

図版No.	出土地点 地区	出土地点 区・段階	出土地点 遺構	器種	器形	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存度 口縁	残存度 底部	色調 釉	色調 胎土	成形・調整・形態の特徴
1	6A1		近世の溝	船橋陶器	天目茶碗	(10.3)			1/12		鉄釉：濃黒～暗茶褐	淡灰	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，外面下半回転ヘラ削り，内外面鉄釉施釉
2	6A1	1	土壇盛土	陶器（常滑）	甕							赤灰	内面上段ナデ，外面ナデ・ヘラ削り，底部ナデ
3	6A2	3	整地土 8 層	須恵器	杯B		(9.2)			1/8		灰～暗灰	ロクロナデ，高台貼付後ナデ，底部回転ヘラ削り，外面自然釉付着
4	6A2	3	整地土 8 層	土師質土器	皿 1A		(8.2)			1/8		灰褐・褐	ロクロナデ，底部回転糸切り
5	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1A	(7.7)	(5.3)	1.8	2/5	2/5		褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
6	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1A	(8.2)	(6.6)	2.3	1/6	1/3		褐～黒褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り，器形に歪みあり
7	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1A	(8.2)	(7.0)	2.3	1/4	1/2		褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
8	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1B				1/10			褐・暗	ロクロナデ，脚部ナ
9	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1B	(10.4)			1/8			褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ
10	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 2B	(11.4)			1/10			褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ
11	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1B	(11.6)			1/10			褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ
12	6A2	1	土 1692	土師質土器	皿 1A	(12.6)			1/12			褐・暗	内面ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内外面タール付着
13	6A2	1	土 1692	陶器（常滑）	甕							灰・黒	内面ナデ・工具ナデ，外面ナデ・指頭圧痕，外面縁灰～茶褐自然釉付着，胴部にスス付着
14	6A2	1	土 1693	土師質土器	皿 1B	(6.4)			1/8			褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ
15	6A2	1	土 1693	土師質土器	皿 1A	(7.2)	(5.7)	2.4	1/5	1/4		淡灰褐～黒褐	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
16	6A2	1	土 1693	土師質土器	皿 1A	7.7	5.6	2.5	1/2	完		褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
17	6A2	1	土 1693	土師質土器	皿 1A	(10.7)	8.5	3.0	わずか	ほぼ完		褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
18	6A2	1	土 1693	陶器（古瀬戸）	鉢II	(13.8)			1/6		灰釉：緑灰～灰	灰・黒	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内面～口縁端部灰釉施釉，後斧古
19	6A2	1	土 1693	五貫土器	風炉							暗褐褐	内面ロクロナデ，外面花菱紋・連子紋押印
20	6A2	1	整地土 4 層	土師質土器	皿 1B	(9.2)	(6.9)	1.6				褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
21	6A2	1	整地土 4 層	土師質土器	皿 2B		(6.6)			1/5		褐・黒	ロクロナデ，底部回転糸切り
22	6A2	1	整地土 4 層	土師質土器	皿 3B							褐～淡黄褐・暗茶	内面ナデ，外面ロクロナデ，底部回転糸切り，赤土（泥）とロイト（白粉）が薄塗する
23	6A2	1	整地土 4 層	陶器（瀬戸・美濃）	擂鉢						鉄釉：茶褐	淡黄灰	内面ロクロナデ後櫛目，外面ロクロナデ・回転ヘラ削り，内外面鉄釉施釉，近世
24	6D1		P1601	土師質土器	内耳鍋							暗褐～黒褐・灰褐	口縁ヨコナデ，肥手鍋付後内外ナデ・オサエ
25	6D2	地山面調査	不明遺構 1622	土師質土器	皿 1A	(7.4)	5.2		1/10	3/4		褐・暗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
26	6D2	地山面調査	不明遺構 1622	土師質土器	皿 1B	(13.0)			1/8			褐～暗褐・粗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内面スス付着，口縁端部タール付着
27	6D2	地山面調査	不明遺構 1622	陶器（古瀬戸）	皿	(6.3)			1/8			黄灰・褐	ロクロナデ，底部回転糸切り，内面使用痕あり，外面黒漆あり
28	6D2	1～6 段階	溝 1637	土師質土器	片口鉢	(31.8)			1/10			暗褐～黒褐	内面ナデ，外面ヨコ方向ナデ・タテ方向ナデ，口縁ヨコナデ，内面に使用痕あり
29	6D2	1～6 段階	溝 1637	土師質土器	内耳鍋							淡褐	ヨコナデ，口縁部片
30	6D2	1～6 段階	P1649	土師質土器	皿 3B	(7.4)	(4.6)	1.8	1/5	1/4		淡褐～暗褐・暗茶	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り，通常の3倍とはやや異なる器土
31	6D2	1～6 段階	P1649	土師質土器	皿 1A	(7.7)	(5.8)	1.8	1/7	1/7		暗褐	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，底部回転糸切り
32	6D2	1 段階	整地土 52 層	須恵器	杯A		(6.8)			1/5		淡灰	ロクロナデ，底部回転糸切り
33	6D2	1 段階	整地土 50 層	土師質土器	皿 1B		(7.4)			1/6		褐～暗褐・粗	ロクロナデ，底部回転糸切り
34	6D2	1 段階	整地土 55 層	土師質土器	皿 1B				1/14			褐・黒	ロクロナデ，口縁ヨコナデ
35	6D2	1 段階	整地土 52 層	土師質土器	内耳鍋							褐～暗褐	ヨコナデ，口縁部片
36	6D2	1 段階	整地土 55 層	陶器（瀬戸・美濃）	擂鉢						鉄釉：暗茶褐	淡黄灰	内面ヨコナデ・ロクロナデ後櫛目，内外面鉄釉施釉，近世
37	6D2	1 段階	整地土 52 層	陶器（古瀬戸）	鉢III	(13.0)					灰釉：淡緑灰 鉄釉：淡赤褐～茶褐	淡黄灰	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内外面鉄釉施釉，口縁端部灰釉施釉，後斧古
38	6D2	1 段階	整地土 52 層	陶器（古瀬戸）	平鍋						灰釉：淡緑黄	灰・黒	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内外面灰釉施釉，後斧
39	6D2	3 段階	整地土 41 層	須恵器	壺							淡灰	内面ロクロナデ，外面ロクロナデ・回転ヘラ削り，外面自然釉付着
40	6D2	4 段階	整地土 18 層	土師質土器	内耳鍋							褐	ヨコナデ，口縁部片
41	6D2	4 段階	整地土 18 層	陶器（古瀬戸）	天目茶碗						鉄釉：茶褐～黒褐	灰白・褐	内面ロクロナデ，外面回転ヘラ削り，削り出し高台，内面鉄釉施釉，後斧～斧古
42	6D2	4 段階	整地土 18 層	陶器（古瀬戸）	緑釉小皿						灰釉：淡緑灰	淡黄灰・黄	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，口縁部灰釉施釉，後斧古
43	6D2	5 段階	整地土 16 層	土師質土器	内耳鍋	(26.0)			1/16			褐～暗褐	ナデ，口縁ヨコナデ
44	6D2	5 段階	整地土 16 層	陶器（大窯）	瓶類		(4.9)			1/4	鉄釉：茶褐～黒	淡黄灰	ロクロナデ，削り出し高台，底部重ね焼き痕，内面見込みに トチン痕あり，内外面鉄釉施釉，大窯２～３段階
45	6D2	6 段階	整地土 7 層	土師質土器	皿 1B	(13.7)			1/10			暗褐～暗褐・粗	ロクロナデ，口縁ヨコナデ
46	6D2	6 段階	整地土 7 層	陶器（大窯）	丸皿					1/8	灰釉：黄灰	灰～灰白	内面ロクロナデ，高台貼付後ナデ，底部重ね焼き痕あり，内外面灰釉施釉，釉は ガラス質，貫入あり，大窯２～３段階
47	6D2	6 段階	整地土 7 層	青磁	碗						青磁釉：緑灰	白・黄	ロクロナデ，内外面青磁釉施釉，しのぎあり，内面素地に突起状の盛り上がりあり
48	6D2	6 段階	柿出面	陶器（大窯）	皿						灰釉：灰白～黄褐 鉄釉：茶褐	淡灰～黄褐・黄	内面ロクロナデ，高台貼付，底部回転ヘラ削り，内外面灰釉施釉，丸皿 or 端反皿，大窯１～２段階
49	6D2		表土 2 層目	土師質土器	皿 2A	(8.3)			1/4			褐・黒	ロクロナデ，底部回転糸切り
50	6D2		表土 2 層目	土師質土器	内耳鍋							褐	ヨコナデ，口縁部片
51	6D2		表土 2 層目	陶器（古瀬戸）	天目茶碗	(9.8)			1/12		鉄釉：暗茶褐～暗赤褐	淡黄灰	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内面鉄釉施釉，口縁部片，後斧古
52	6D2		表土 2 層目	陶器（瀬戸・美濃）	壺	(6.6)			1/24			淡黄灰・黄	ロクロナデ，灰釉施釉，口縁部片，近世
53	6D2		表土 2 層目	陶器（瀬戸・美濃）	碗				わずか		鉄釉：茶褐～黒褐	淡黄灰・黄	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内外面鉄釉施釉，口縁端部に薄く鉄釉施釉か，口縁部片，近世
54	6D2		表土 1 層目	陶器（瀬戸・美濃）	碗						灰釉：淡緑灰	淡黄灰・黄	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，灰釉施釉，口縁部片，近世
55	6D2		tトレンチ 表土 2 層目	陶器（瀬戸・美濃）	碗						灰釉：淡緑灰	淡黄灰・黄	ロクロナデ，灰釉施釉，口縁部片，近世
56	6D2		排土	陶器（瀬戸・美濃）	碗	(7.6)			1/8		灰釉：淡緑灰	淡黄灰・黄	ロクロナデ，口縁ヨコナデ，内面灰釉施釉，近世

※（　）内数値は推定値を表す。


6A1 トレンチ
6A2 トレンチ
3・4 面 (3 ～ 4)
1 面 (5 ～ 23)
6D1 トレンチ
6D2 トレンチ
地山面 (25 ～ 27)
第 1 ～ 6 段階 (28 ～ 31)
※拓影 (19) のみ S=1/3
0 S=1/4 10cm

第 22 図　焼物（1）



第 23 図　焼物（2）

第 6 表　焼物の器種・器形別破片数集計

調査区			6A1トレンチ						6A2トレンチ						6D1トレンチ						6D2トレンチ											
器種・器形			1面	前期以前	計	%			3・4面	1面	計	%			7・6D1	計	%				第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	7・6段階	近世以降・検出・トレンチ	近世以降	計	%	
土師質土器	皿	1部							2	21	23	47.9									3	6		4		1	2	1	1	19	25.0	
		2部							2	8	10	20.8	70.8									4		2	1				1	8	10.5	43.4
		3部					33.3			1	1	2.1		91.7					100.0			2		1		2				5	6.6	82.9
	大型鍋	1部																							1					1	1.3	
	内耳鍋		1	1	33.3	33.3				10	10	20.8	20.8		2	2	100.0	100.0				5		6	1	1	10	1	3	2	29	38.2	39.5
	鍋蓋・片口鉢																									1				1	1.3	
在地産須恵器	鍋蓋																															
瓦質土器	内耳鍋・鍋蓋・片口鉢										1	2.1	2.1																			
	鍋形・火鉢類									1	1	2.1																				
無釉陶器	山茶碗									1	1	2.1																				
	小皿			1			33.3						4.2																			
	片口鉢																															
	壺・その他		1	1	33.3					1	1	2.1																				
陶器（古瀬戸・大窯）	天目茶碗																				1		1					1	3	3.9		
	平碗																				1								1	1.3		
	折縁									1	1	2.1									1								1	1.3		
	縁釉徳利類																				1		1	1	2	1			6	7.9		
	鉢・類似																															
	瓶子・水注・花瓶類																												11			14.5
	茶入									1			2.1																			
	合子																															
	湯呑徳茶碗																															
	その他の碗																															
	鍋蓋																															
	その他																															
青白磁	碗																															
青磁	碗・類似																									2			2	2.6		
	盤																															
	香炉																												2	2.6		2.6
	瓶						33.3																									
白磁	碗・類																															
	瓶子類																															
青花磁	碗・類似																															
軟質陶器	天目茶碗		1	1	33.3	33.3																										
	茶壺																															
合　計			1	2	3		100.0		4	44	48		100.0		2	2		100.0			4	20	1	15	3	7	16	2	3	5	76		100.0

2　石器・石製品　（第 24 図、第 7 表）

今回の調査では、合計 7 点の石器・石製品が出土した。器種の内訳は、砥石 2 点、石臼 1 点、石鏃 1 点、掻器 1 点、微細剥離ある剥片 1 点、不明 1 点である。微細剥離ある剥片以外を図示し、概要を記す。石製品の帰属時期は共伴する土器に準ずるものとする。なお、実測図中における砥面・磨耗面は、断面図に矢印を付し表現した。

砥石（1・2）

1・2 ともに凝灰岩製で、長軸に半分程度欠損している。1 は、表・裏面ともに使用痕が観察でき、表面は内湾し、裏面はがやや外湾している。横断面形は平行四辺形である。2 は、表・裏面が内湾する。1・2 の側面には加工時に形成されたとおもわれる斜めに平行する線状痕が確認できる。また、石質とサイズから中～仕上げ砥の手持ち砥石が想定できる。

石臼（3）

3 は、下臼部分で、半分欠損した状態で出土した。臼面には溝がみられず、表面の磨耗が全面的に広がる。多孔質な石材であるため、溝を掘らずにそのまま使用したものであろうか。心棒孔は下まで貫通し、裏面のえぐりが比較的大きい。表面が若干煤けているが、割れは被熱破砕ではなく、人為か自然為かは不明であるが側面からの加撃によるものである。

石鏃（4）

4 は、左右非対称の無茎平基鏃である。二次加工は部分的にのみみられ、比較的粗雑な作りであるため、未成品の可能性も考えられる。

掻器（5）

5 は、刃部は 2 側縁に見られる。1 側縁はやや抉入状になる。素材の剥片形態は不明であるが、刃部の作出は末端部・先端部ともにみられる。

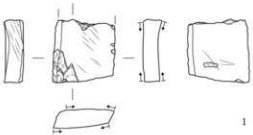
不明（6）

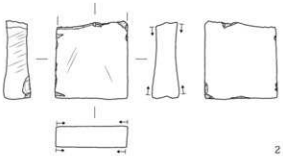
6 は、チャート製で、自然面に擦痕のような線状痕が観察される。擦痕面はやや外湾する。大きく破損しており、全形がうかがえないため、器種は不明である。

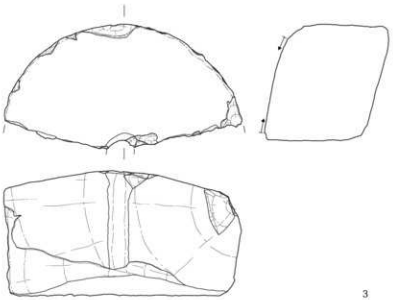
第 7 表　石器・石製品一覧表

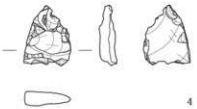
ID	図No.	種類	地区	面・段階	遺構	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
1	1	砥石	6D1	検出面	検出面	凝灰岩	(3.21)	(3.15)	(1.60)	(17.7)	2/3 以上欠損	砥面 2 面（内湾と外湾）、側面加工痕有。
2	2	砥石	6D2	1 ～ 3 段階	整地土	凝灰岩	(4.52)	(4.16)	(1.42)	(36.9)	2/3 欠損	砥面 2 面（内湾）、小口と側面加工痕有。
3	3	石臼（下臼）	6D2		排土	安山岩	(24.9)	(13.01)	(13.23)	(5,200.0)	1/2 欠損	目に溝はみられず、使用により磨耗。
4	4	石鏃	6A2		表土 2 層目	黒曜石	1.94	1.51	0.51	1.4	完形	
5	5	掻器	6A2		表土 2 層目	黒曜石	2.37	1.71	0.94	2.5	完形	刃部 2 側縁。
6		微細剥離ある剥片	6D2	1 ～ 3 段階	整地土	チャート	3.05	1.88	0.46	2.4	完形	縦長剥片素材、微細剥離 2 側縁。
7	6	不明	6A2		表土 2 層目	チャート	5.60	2.59	1.90	(30.9)	2/3 以上欠損	研磨 / 摩耗面 1 面あり。

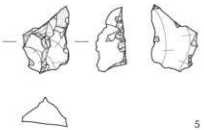
※（　）内数値は現存値を表す。

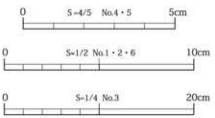












第 24 図　石器・石製品

第Ⅲ章　第６次調査のまとめ

本章では、第６次調査で明らかになった点について地区毎に整理し、調査のまとめとしたい。

１　Ａゾーン

本地区は１次調査以来範囲確認を継続している。今回は、１次及び４次調査で確認した１面の土塁状遺構の追跡を目的に 6A1 トレンチを、また平場背面北西側の状況確認を目的として 6A2 トレンチを調査した。6A1 トレンチでは、土塁状盛土の南端部を確認したが、上部構造及び東辺の法面を明らかにすることはできなかった。これまでの調査状況からひとまずは土塁と判断し今日に至っているが、西側より一段高い平場の可能性もなお残している。しかし、東側に開削された市道の掘割によって調査可能範囲も狭まっているうえにグラウンド造成前の攪乱も著しく、これ以上の確認は難しい状況にある。

6A2 トレンチは、実質的に１次Ｈトレンチの再調査となった。その結果、少なくとも３面の遺構面が捉えられた。平場背面側は地山レベルが増すため整地土は薄く、結果として帰属面の区別ができない遺構が多々あったが、１次調査所見から一帯に遺構の集中が及ぶのは２面以後であり、１・２面を中心とした時期に拡大した活動域の一端を露呈したものと理解されよう。遺構の内容は掘立柱建物跡や柱穴列をはじめとする柱穴が多数検出されたほか、他の調査区ではこれまであまり見られなかった方形基調の大型土坑が集中していた。覆土に炭を多く含み、土師質皿をはじめとする遺物を比較的多く伴う点を特徴とする。貯蔵施設等の機能を有していたものであろうか、この一帯における平場利用の手掛かりとなろう。

遺物の面では、6A2 トレンチを中心に焼物群を得たが、その組成はこれまでの調査地点と傾向を一にしていた。今回注目すべき点としては、6A1 トレンチにおける舶載天目茶碗、6A2 トレンチにおける瓦質風炉の出土で、居館や寺院に限定される傾向の高い高級な茶道具が、今回調査地点においても得られたことである。東西 75m 以上・南北 60m 以上に及ぶ広大なＡゾーンの平場においては、どの地点の調査においても瓦質風炉・火鉢の出土があり、組成上は僅かであっても、平場上で展開された活動においては必需品だったことを示している。寺院等宗教施設としての殿村遺跡の色彩を濃厚にする遺物と言ってもいいであろう。

２　Ｄゾーン

本地点の調査は、遺跡範囲の北部における中世造成面の確認を目的として、新たに２箇所で実施したものである。このうち、6D1 トレンチでは造成面が見当たらず遺構もごく僅かで、遺跡縁辺部の様相を呈していた。しかし、南接する畑地の 6D2 トレンチでは、上下２段構成の平場が６段階の過程を経て上段１面の平場に変遷し、その都度前面切岸に石積や石列を配することが判明した。地割から判断してその規模は南北 37.5m・東西 35m 以上の方形区画になる可能性が高い（第 21 図）。時期的にも 15 世紀前半～ 16 世紀にわたる陶磁器が出土しており、Ａゾーンの平場遺構と築造技術のうえでも時期的にも近似し、併行関係にあることは間違いない。同様なことは、第２次調査で実施したＣゾーンの平場跡にも当てはまり、平成 25 年に小規模な確認調査を実施したＢゾーンでも平場が存在する可能性が高い。従って殿村遺跡の平場遺構は、少なくとも南北 340 m前後・東西 250m 以上の範囲に群在することが明らかで、地割から判断して各調査地点間の未調査範囲にも連綿と連なる雛段状の景観を形成していたとみていいのであろう。

では、これほどの規模を有する空間の性格は何であったのか。これについては、１次調査概報以来、伝承に基づく会田氏居館跡との見方を改め、石積を含む平場の築造技術や茶道具、貿易陶磁等のあり方から寺院等宗教施設の可能性を考え、その積極的根拠としてこれまで、考古学的な所見のほかに２箇所の中世寺院の存在を示してきた。まず、平成 25 年に本堂が解体された長安寺は遺跡の東端に位置し、古くは虚空蔵菩

薩を祀る真言修験の寺として、また鎌倉後期からは会田氏の関与による臨済寺院として再興し、会田氏滅亡に伴う寺勢衰退等の曲折を経ながら近年まで法灯を伝えてきた。次に、旧会田小学校体育館付近に存し廃仏毀釈となった補陀寺も室町時代の観音像を本尊とし、近世に善光寺街道沿いの霊場として賑わった岩井堂観音を奥院とする真言寺院であった。これら２箇寺は、会田氏滅亡前年に記録された「信濃国道者お祓い配り日記」（天正９年・1581）に登場する会田の寺院で、ともに最終的な堂宇は殿村遺跡東部のＥゾーンおよび南部のＢゾーンに存した。この２箇寺の中世における規模は大きかったとも言われ、その範囲は不明ながらもＡ～Ｃ区の検出遺構との直接的な関係を考慮しなければならない。

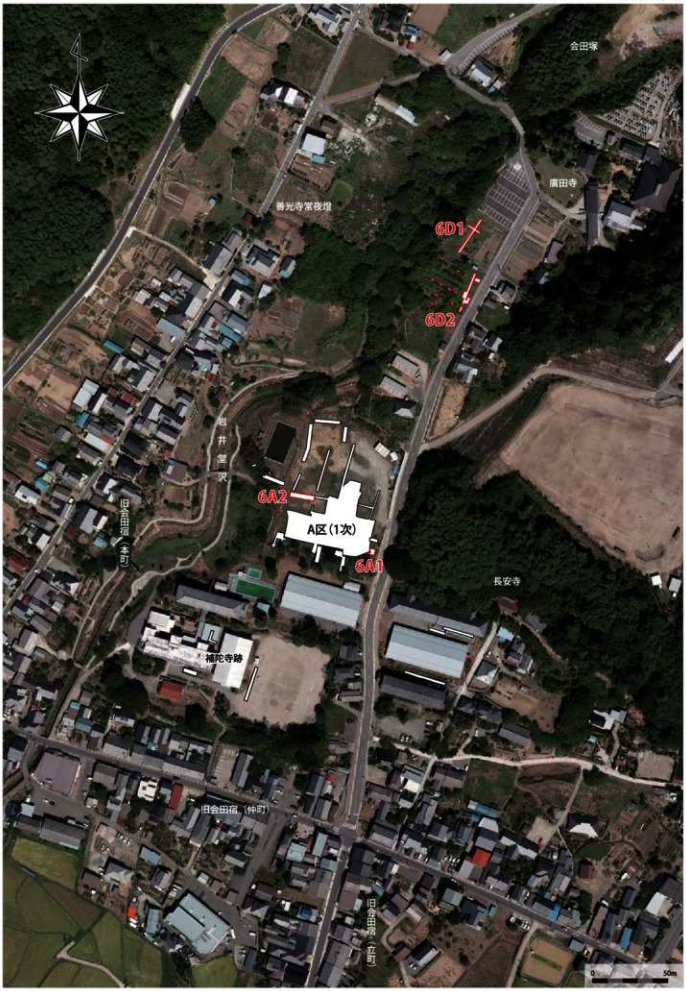
次に、前出の「お祓い配り日記」に記載された会田の寺院に、「糸け寺」と記載される所在不明の寺がある。平成25年、関連史料調査に際し、長らくその所在地が不明だったこの寺院の位置を探るうえで重要な手掛かりとなる絵図１面について、これまで既出史料として知られる「文禄三年会田郷往古の略図」と同じ大河内家文書の中に発見した。虚空蔵山を背景に会田周辺の町村と道、耕地が描かれた「信濃国筑摩郡会田町村絵図」（第８図）は、文化10年（1815）以降に描かれた江戸時代の絵図で、ここに「字殿村」の北側かつ「広田寺」の西方、岩井堂沢との間に「字糸け」と記された地名が見える。直接寺名の記載はないが、ここに記された字名が糸け寺に由来する可能性は高く、とすれば、現在の広田寺を含む岩井堂沢との間の領域がその推定域となる。ちなみに広田寺は、知見寺沢に存した知見寺が会田氏滅亡とともに衰退、会田氏の故地であり会田塚に隣接する現在地に移転したと伝わる。その詳細な経緯や糸け寺との関係は不明だが、近世以後の糸け寺の記録が見られないことから、戦国末期の会田氏滅亡に前後して廃れた糸け寺の跡地に広田寺が移った可能性も考え得る。

いずれにしても、Ｄゾーンにおける平場遺構と絵図の発見により、中世における糸け寺と殿村遺跡の関係もクローズアップされることとなった。この見方が正しいならば、殿村遺跡は北の糸け寺、東の長安寺、南の補陀寺とオーバーラップし、広大な平場遺構群は。これら３箇寺との関係において少なくとも３つの中心域が複合して全体景観を形成していたことになる。この点は将来的に明らかにすべき課題であろう。

最後に、今回の調査は初めて個人所有地での実施となった。調査にご快諾をいただいた地権者の皆様、また近隣の皆様、加えて調査から整理に際し数々のご指導をいただいた皆様に感謝の意を表して、本調査報告書の結語としたい。

現地説明会

殿村遺跡第６次発掘調査団



調査地の位置と周辺の地形（S ＝ 1/2500）

写真図版２

6A1 トレンチ１面検出状況（西から）

２面完掘（南から）

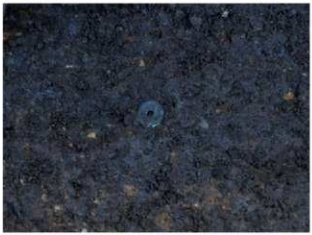
杭１断面（南から）

北壁土層断面、杭１・２検出状況（南から）

東壁土層断面 (西から)

6A2 トレンチ全景 (東から)

土 1692 完掘 (北から)



土 1692 銭出土状況

土 1693 完掘 (南から)

土 1693 遺物出土状況 (北から)

土 1693・建 14 完掘 (南から)

P1679・土 1680 完掘 (南から)

6D1 トレンチ遠景 (北東から)

6D1 トレンチ全景 (北から)

P 1601 土層断面 (東から)

6D2 トレンチ全景(南から)

東拡張区全景 (南から)

南拡張区全景 (北から)

ST4 西壁土層断面 (東から)

石積Ｇ完掘（南から）

片口鉢（№28）出土状況（西から）

炉 1621 土層断面（東から）

6D2 トレンチ北部遺構群（北から）

写真図版 8

石列 28 西壁土層断面 (東から)

石積 G 西壁土層断面 (東から)

石列 29 西壁土層断面 (東から)

南東拡張区　石列 30 完掘 (南から)

南東拡張区南壁土層断面 (北から)

6D2b トレンチ礫出土 7 状況 (東から)

6D2 c トレンチ完掘 (東から)

焼物（S=1/2、24 のみ S=1/3、No.は実測図中の番号に同じ）

焼物（S=1/2、28：S=1/3）・金属製品（S=2/3）・石製品（1：S=1/6、2：S=1/3、№は実測図中の番号に同じ）

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとしとしのむらいせきだい６じほっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市殿村遺跡第６次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№ 223
編著者名	伊藤　愛、竹原　学、原田健司
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620　松本市丸の内３番７号　TEL 0263-34-3000（代）
	（記録・資料保管：松本市立考古博物館　松本市中山3738 番地１　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	2016（平成 28）年３月 25 日（平成 27 年度）

ふりがな	ふりがな	コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村						
とのむらいせき 殿村遺跡	ながのけん 長野県 まつもとし 松本市 あいだ 会田 536 外	20202	1023	36 度 21 分 12 秒	137 度 59 分 34 秒	20140818 ～ 20141219	201 ㎡	範囲・内容 確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
殿村遺跡	散布地 集落跡 社寺跡 城館跡	縄紋	なし	石器・石製品	保存目的のための範囲・内容確認調査
		古代	なし	土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器	
		中世	ピット　95 基 土坑　9 基 炉址　1 基 溝状遺構　8 基 掘立柱建物址　1 基 柱穴列　2 基 杭　2 基 石列　5 基 石積　1 基 不明遺構　1 基 土塁状盛土	焼物：土師質土器（皿・内耳鍋・片口鉢） 炉石（常滑甕） 瓦質土器（風炉） 瀬戸・大窯産陶器（天目茶碗、緑釉小皿、盤、擂鉢他）、舶載陶器（天目茶碗）、磁器（青磁碗） 石器：石臼・砥石 金属製品：銭	
			溝状遺構　4 基	陶磁器	

要約	殿村遺跡調査事業に係る中世を対象とした遺跡の範囲内容確認調査として、６回目の実施となるもの。１次調査で検出された中世の平場遺構南東部（6A1 トレンチ）からは、整地された２面の遺構面が検出され、１面からは柱穴列や２本の杭が、２面からは溝や石列が確認された。平場西側の範囲を確認するために設定した 6A2 トレンチでは、１～３面の遺構面が東半部を中心に広がっており、ここに平場整地土の北西端を見ることができる。遺跡北部に設定した 6D1 トレンチでは、地山上に２基のピットが見られたのみで整地土は確認できなかったが、その南東に設定した 6D2 トレンチでは、石列や石積によって全６段階に分けられた整地土が広がっており、遺構も多数確認できることから、整地を伴う中世遺構の北限はこのトレンチまで及ぶことが判明した。

殿村遺跡発掘調査報告書一覧

『殿村遺跡―第１次発掘調査概報―』　2011 年３月発行
『殿村遺跡―第２次発掘調査報告書―』　2012 年３月発行
『殿村遺跡―第３次発掘調査報告書―』　2013 年３月発行
『殿村遺跡―第４次発掘調査報告書―』　2014 年３月発行
『殿村遺跡―第５次発掘調査報告書―』　2015 年３月発行

松本市文化財調査報告№ 223
長野県松本市
殿 村 遺 跡
―第６次発掘調査報告書―

発行日　平成 28 年３月 25 日
発行者　松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内３番７号
印　刷　精美堂印刷株式会社